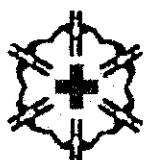


2019/2020シーズン

スキー場傷害報告書

令和2年2月1日～2月29日

全部掲載終了!!!



全国スキー安全対策協議会

目 次

はじめに	3
1. 協力スキー場および調査期間	4
2. 用具の分類	4
3. 受傷者数および集計・分析の対象	4
4. スキーとスノーボードの受傷者割合	7
5. 用具別の受傷者割合	7
6. リフト等の輸送人員	8
7. 受傷率	9
8. スキー受傷率およびスノーボード受傷率	10
9. 受傷時間帯	15
10. 天候	16
11. 性別	17
12. 年齢	17
13. 技能	18
14. 受傷場所	19
15. 受傷原因	20
16. 傷害の部位と種類	22
17. 傷害程度	24
18. 頭を強く打った疑い	25
19. ヘルメットの着用状況	25
20. 保険の加入状況	26
21. 受傷時の行動	27
22. 受傷時のスピード	28
23. 雪面状況	29
24. 雪質	29
資料 1 2019/2020 シーズン スキー場内および管理区域外での死亡事故一覧表 (2020 年 3 月 31 日現在)	30
資料 2 スノースポーツ死者数の 17 年間の推移	33
資料 3 2020 年 2 月スキー場傷害調査用紙	34
資料 4 全国統一スキー場標識マーク等色刷一覧表	35

はじめに

このスキー場傷害報告書は、毎年全国スキー安全対策協議会より協力を依頼したスキー場の2月中のデータをもとに作成しています。

本調査は例年通り 47 スキー場の協力を得て実施することができました。各スキー場では、リフト・ゴンドラ等の新設・運休・廃止等シーズンによって状況が異なることがあるので、調査対象が同じであっても、その結果が必ずしも同じとは言えないかもしれません。しかし、そのような状況を考慮しても、我が国において、本調査のような大規模かつ長期にわたる経年的統計データは他に見られないことから、本調査には大切な意味があると考えられます。

2019/2020 シーズンの調査結果の特徴として下記 3 項目が挙げられます。

はじめに、負傷者の国名を記入する欄を新たに設けました。その結果、全傷害件数 (2,644 件) に占める外国人の割合は全体で 18% (476 件) を占め、最も高い 65% を筆頭に、20% を超えるスキー場は全国で 11 スキー場もありました。国別でみると、オーストラリア 151 人、台湾 67 人、香港 56 人、中国 41 人、アメリカ 29 人、タイ 21 人、シンガポール 17 人、イギリス 11 人、ニュージーランド 10 人、マレーシア 8 人の順でした。日本の良質な天然雪を求めてこれほど多くの外国人が訪れて、不幸にもケガをされているとは、今シーズンの調査結果を見るまで思いもよりませんでした。増え続けるインバウンド受傷者に対応する、スキー場の安全対策に関わるスタッフの苦労がうかがえます。

次に受傷率の推移について、昨シーズンのスキーの受傷率が過去 20 年間で最悪 (0.0096) を記録しましたが、今シーズンは過去 20 年間の平均値 (0.0079) とほぼ同じ値 (0.0080) に回復しました。またスノーボードの受傷率も、昨シーズンは過去 20 年間でワースト 3 (0.0136) を記録しましたが、今シーズンは過去 20 年間でベスト (0.0105) を記録しました。受傷率が大幅に改善した要因について、詳しい分析を待たないとなりませんが、傷害件数が昨年と比べておよそ千件も減ったことや、新型コロナウイルスの影響で客足が落ちたことも関係するかもしれません。

主なスキー外傷の部位や種類の傾向は例年と変わらず、頭部外傷がスキーで 4 位、スノーボードで 3 位と高位を占めることから、ヘルメット着用を訴えてきました。スキーのヘルメット着用率は昨シーズン 43.2% と初めて 40% を超え、今シーズンは 48.2% とさらに伸び、5 割に迫ってきました。同様にスノーボードのヘルメット着用率も、8 シーズン前の 5% から着実に伸び続け、昨シーズンは 22.9%，さらに今シーズンは 24.4% と約 1/4 にまで確実に上昇を続けており、スノーボードの傷害発生率の低下に貢献しています。

本調査の目的はスキー場の傷害調査であることから、スキー場より報告された調査票に含まれる傷害以外の急病等の疾病については、傷害発生率などの分析に影響するので集計から除いています。その結果、傷害報告数と、本報告書の傷害件数が異なる場合があることをご了承願います。なお、調査項目については、記入に要する労力や経費削減の観点から引き続き精査しております。

本報告書が、スキー場のリスクマネジメント・スキー学校等における安全指導の参考資料等として活用され、安全で楽しいスノースポーツ発展の一助となることを願っています。

本調査にご協力いただいた、受傷したスノースポーツ愛好者の方々、スキーパトロール隊や診療所等スキー場関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

2020 (令和 2) 年 6 月

全国スキー安全対策協議会
調査委員 富 横 泰 一

1. 協力スキ一場および調査期間

2020年2月1日から2月29日の1ヶ月間、全国47スキ一場から報告があったデータをもとに集計・分析しました。協力スキ一場及び受傷者数については表1、表2に示しました。

なお、志賀高原スキ一場については、志賀高原エリアの8スキ一場を総合したものですが、シーズンによって協力スキ一場が異なる場合があります。

2. 用具の分類

用具は、2011/2012シーズンの調査用紙より次のように分類しました。

1) スキー

- ① アルペンスキー（従来のノーマルスキー、カービングスキー、ファンスキーやファットスキー、モーグルスキー、オールランドスキー等を含む）
- ② スキーボード（スキー板の長さ100cm未満のもの）
- ③ テレマークスキー
- ④ クロスカントリースキー
- ⑤ その他のスキー

2) スノーボード

- ① フリースタイルスノーボード
- ② アルペンスノーボード
- ③ その他のスノーボード

3) ソリ

- ① 子供用ソリ
- ② 腰掛ソリ
- ③ 立ち乗りソリ（スノースクート等）
- ④ その他のソリ

4) その他

3. 受傷者数および集計・分析の対象

47スキ一場から送付してきた調査票のうち、持病や体調不良など傷害ではないと思われるもの24件（リフト搬器衝突や落下事故、駐車場やレストハウス等での事故、内科系疾患等）を除き2,644件を分析の対象としました。その受傷者内訳は、スキー1,174件（表1）、スノーボード1,460件（表2）、ソリその他が10件（表2）でした。

なお、各項目における集計・分析は原則として無記入（欠損値）を除いて行いました。

表1. 用具別受傷者数 (スキー)

番号	スキー場	受傷者 合計	(人)					(G) スキー 小計
			アルペ ンス キー	スキー ボード (100cm 未満)	テレ マーク スキー	クロスカ ントリー スキー	その他のス キー	
1	ニセコグランヒラフ	118	60	0	0	0	0	60
2	朝里川温泉スキー場	9	6	2	0	0	0	8
3	サッポロティネスキー場	33	24	0	0	0	0	24
4	札幌国際スキー場	21	8	0	0	0	0	8
5	ルスツリゾートスキー場	117	71	1	0	0	0	72
6	富良野スキー場	58	33	0	2	0	0	36
7	大鷲温泉スキー場	8	7	0	0	0	0	7
8	安比高原スキー場	68	35	0	0	0	0	35
9	みやぎ蔵王白石スキー場	9	7	0	0	0	0	7
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	30	10	0	0	0	1	11
11	猪苗代スキー場	39	17	1	0	0	0	18
12	裏磐梯猫魔スキー場	23	7	0	0	0	0	7
13	アルツ磐梯スキー場	55	11	0	0	0	2	15
14	会津高原たかつえスキー場	8	2	0	0	0	0	2
15	たざわ湖スキー場	22	13	0	0	0	0	13
16	蔵王温泉スキー場	105	63	2	0	0	3	68
17	苗場スキー場	75	40	0	0	0	1	41
18	石打丸山スキー場	65	23	0	0	0	4	27
19	舞子スノーリゾート	35	2	0	0	0	0	2
20	上越国際スキー場	74	44	1	0	0	0	45
21	六日町八海山スキー場	6	4	0	0	0	0	4
22	斑尾高原スキー場	121	41	0	0	0	0	41
23	野沢温泉スキー場	127	56	0	0	0	0	56
24	志賀高原スキー場	160	104	0	0	0	0	105
25	白馬五竜スキー場	145	61	1	0	0	1	63
26	白馬八方尾根スキー場	150	97	0	0	0	0	97
27	白馬岩岳スノーフィールド	60	19	0	1	0	0	20
28	根池高原スキー場	146	54	0	0	0	1	55
29	立山山麓スキー場	5	3	0	0	0	0	3
30	白山一里野温泉スキー場	10	5	0	0	0	0	5
31	草津国際スキー場	26	9	0	0	0	0	9
32	スノーパーク尾瀬戸倉	14	2	0	0	0	1	3
33	万座温泉スキー場	15	13	0	0	0	0	13
34	ハンターマウンテン塩原	140	21	0	0	0	0	21
35	ダイナランド	206	33	0	0	0	1	34
36	SKI JAM 勝山スキー場	39	16	0	0	0	1	17
37	箱館山スキー場	4	3	0	0	0	0	3
38	ハチ北高原スキー場	77	17	1	0	0	0	18
39	びわ湖パレイスキー場	46	19	1	0	0	0	20
40	奥神鍋スキー場				0			
41	ハチ高原スキー場	59	33	0	0	0	0	33
42	だいせんホワイトリゾート	44	25	1	0	0	0	26
43	芸北国際スキー場	8	2	0	0	0	0	2
44	恐羅漢スノーパーク	7	1	0	1	0	1	3
45	瑞穂ハイランド	44	9	0	0	0	1	10
46	ユートピアサイオト	10	6	0	0	0	0	6
47	久万スキーランド	3	1	0	0	0	0	1
	合 計	2,644	1,137	11	4	0	18	1,174

表2. 用具別受傷者数（スノーボード・ソリ・その他）

番号	スキーオークション	受傷者合計	スノーボード			ソリ			(I=ソリ小計+その他)(人)	
			フリースタイルスノーボード	アルペンスノーボード	その他スノーボード	スノーボード小計	子ども用ソリ	腰掛ソリ	立ち乗りソリ	その他ソリ
1	ニセコグランヒラフ	118	57	1	0	58	0	0	0	0
2	朝里川温泉スキー場	9	1	0	0	1	0	0	0	0
3	サッポロティネスキーオークション	33	8	0	0	8	0	0	1	1
4	札幌国際スキー場	21	13	0	0	13	0	0	0	0
5	ルスツリゾートスキー場	117	45	0	0	45	0	0	0	0
6	富良野スキー場	58	22	0	0	22	0	0	0	0
7	大鰐温泉スキー場	8	1	0	0	1	0	0	0	0
8	安比高原スキー場	68	32	1	0	33	0	0	0	0
9	みやぎ蔵王白石スキー場	9	1	0	0	1	0	0	0	1
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	30	19	0	0	19	0	0	0	0
11	猪苗代スキー場	39	21	0	0	21	0	0	0	0
12	裏磐梯猫魔スキー場	23	16	0	0	16	0	0	0	0
13	アルツ磐梯スキー場	55	38	1	0	40	0	0	0	0
14	会津高原たかつえスキー場	8	6	0	0	6	0	0	0	0
15	たざわ湖スキー場	22	9	0	0	9	0	0	0	0
16	蔵王温泉スキー場	105	37	0	0	37	0	0	0	0
17	苗場スキー場	75	33	0	0	33	0	0	0	0
18	石打丸山スキー場	65	31	0	6	38	0	0	0	0
19	舞子スノーリゾート	35	33	0	0	33	0	0	0	0
20	上越国際スキー場	74	29	0	0	29	0	0	0	0
21	六日町八海山スキー場	6	2	0	0	2	0	0	0	0
22	斑尾高原スキー場	121	80	0	0	80	0	0	0	0
23	野沢温泉スキー場	127	68	1	0	69	0	2	0	2
24	志賀高原スキー場	160	52	1	0	53	0	2	0	2
25	白馬五竜スキー場	145	82	0	0	82	0	0	0	0
26	白馬八方尾根スキー場	150	53	0	0	53	0	0	0	0
27	白馬岩岳スノーフィールド	60	39	0	0	39	0	0	0	1
28	桜池高原スキー場	146	88	2	1	91	0	0	0	0
29	立山山麓スキー場	5	2	0	0	2	0	0	0	0
30	白山一里野温泉スキー場	10	5	0	0	5	0	0	0	0
31	草津国際スキー場	26	17	0	0	17	0	0	0	0
32	スノーパーク尾瀬戸倉	14	11	0	0	11	0	0	0	0
33	万座温泉スキー場	15	2	0	0	2	0	0	0	0
34	ハンターマウンテン塩原	140	117	0	0	117	0	0	0	1
35	ダイナランド	206	171	1	0	172	0	0	0	0
36	SKI JAM 勝山スキー場	39	22	0	0	22	0	0	0	0
37	箱館山スキー場	4	1	0	0	1	0	0	0	0
38	ハチ高原スキー場	77	58	1	0	59	0	0	0	0
39	びわ湖バレイスキー場	46	26	0	0	26	0	0	0	0
40	奥神鍋スキー場	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	ハチ高原スキー場	59	26	0	0	26	0	0	0	0
42	だいせんホワイトリゾート	44	18	0	0	18	0	0	0	0
43	芸北国際スキー場	8	6	0	0	6	0	0	0	0
44	恐羅漢スノーパーク	7	4	0	0	4	0	0	0	0
45	瑞穂ハイランド	44	33	0	1	34	0	0	0	0
46	ユートピアサイオット	10	4	0	0	4	0	0	0	0
47	久万スキーランド	3	1	1	0	2	0	0	0	0
	合計	2,644	1,440	10	8	1,460	0	4	0	5
										3

4. スキーとスノーボードの受傷者割合

図1は過去5年間のスキー及びスノーボードの受傷者の割合を示したもので（ソリ等その他を除いて集計）。受傷者割合はこの4シーズンで大きな変化がなく、スキーは44.6%，スノーボードは55.4%でした。

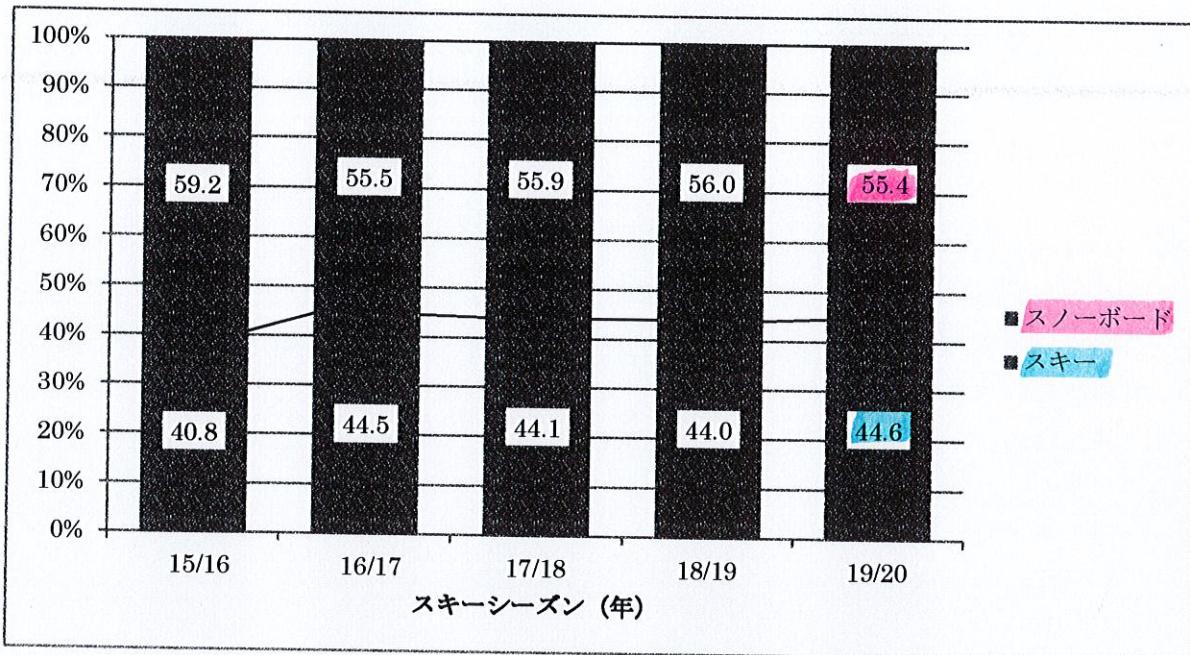


図1. スキーとスノーボードの受傷者割合の推移

5. 用具別受傷者割合

図2は受傷者の使用用具の割合です。昨シーズンと比較すると、アルペンスキーが0.9ポイント増加、フリースタイルスノーボードが0.2ポイント減少しました。

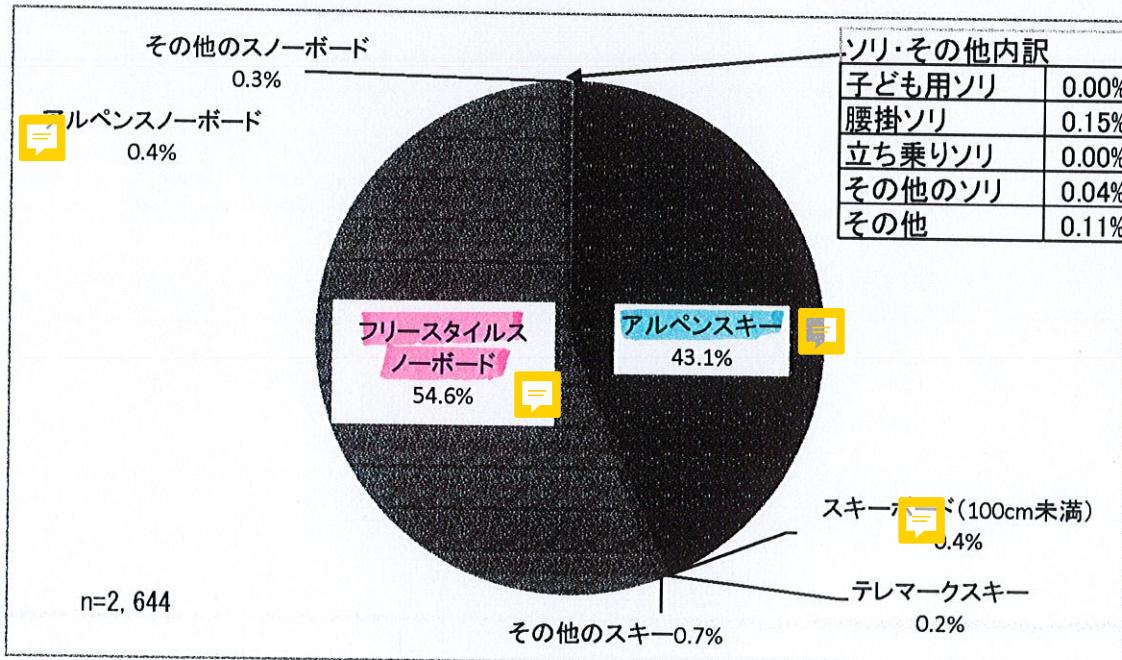


図2. 用具別受傷者の割合

表3は、用具別受傷者の過去5年間の推移を表したものです。今シーズンの受傷者数は昨シーズンより27.3ポイント減少しました。

表3. 用具別受傷者数の推移 (人)

調査年	アルペン	スキー				スノーボード			ソリ その他	計
		スキー ボード	テレマー ク	クロカン	その他	フリース タイル	アルペン	その他		
2016年	1,213	17	2	1	50	1,818	18	26	30	3,175
	38.2%	0.5%	0.1%	0.0%	1.6%	57.3%	0.6%	0.8%	0.9%	100.0%
2017年	1,382	14	3	1	19	1,747	11	12	6	3,195
	43.3%	0.4%	0.1%	0.0%	0.6%	54.7%	0.3%	0.4%	0.2%	100.0%
2018年	1,313	13	4	0	9	1,689	4	3	18	3,053
	43.0%	0.4%	0.1%	0.0%	0.3%	55.3%	0.1%	0.1%	0.6%	100.0%
2019年	1,531	26	2	3	26	1,985	18	17	16	3,624
	42.2%	0.7%	0.1%	0.1%	0.7%	54.8%	0.5%	0.5%	0.4%	100.0%
2020年	1,137	11	4	0	18	1,440	10	8	8	2,636
	43.1%	0.4%	0.2%	0.0%	0.7%	54.6%	0.4%	0.3%	0.3%	100.0%

6. リフト等の輸送人員

スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員は、各スキー場から報告があった2月の輸送延べ人員とスキーヤーとスノーボーダーの入り込みの比率から推計したものです。

表4はスキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の推移です。2020年2月の輸送延べ人員は、前年度と比べて13.1ポイント減少しました。内訳はスキーヤーが15.3ポイント減少、スノーボーダーは10.3ポイント減少しました。

表4. スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の推移 (人)

調査年 (2月)	スキーヤー	対前年 比	スノーボーダ ー	対前年比	総輸送人員	対前年比
2016年	17,023,802	0.71%	14,097,941	-4.14%	31,121,743	-1.55%
2017年	15,513,064	-8.87%	13,693,128	-2.87%	29,206,192	-6.16%
2018年	18,455,657	18.97%	13,574,169	-0.87%	32,029,826	9.67%
2019年	17,152,397	-7.06%	13,630,601	0.42%	30,782,998	-3.89%
2020年	14,529,151	-15.29%	12,223,262	-10.32%	26,757,377	-13.08%

※ 調査年により協力スキー場数に変動があります。

図3はスキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の割合です。スキーヤーは1.5ポイント減、スノーボーダーは1.4ポイント増となりました。

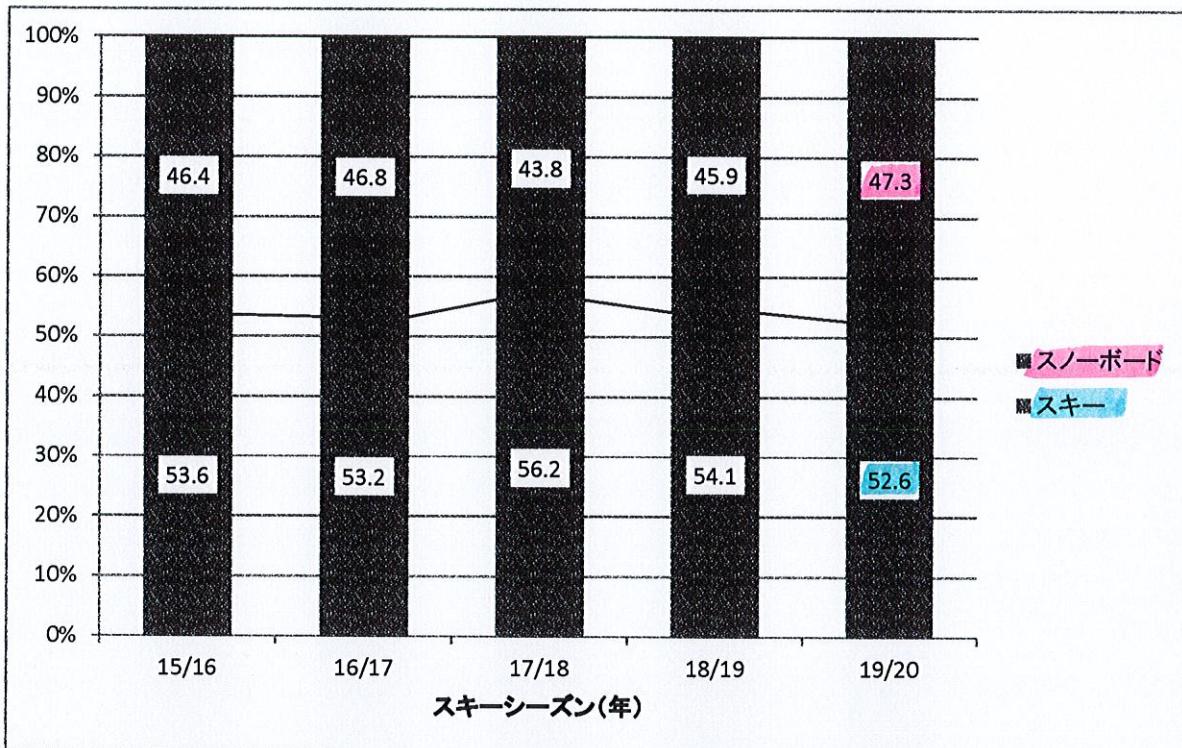


図3. スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の割合の推移

7. 受傷率

最近10シーズンの、スキー・スノーボード・ソリその他を合わせた受傷率の推移を図4に示しました。昨シーズンは過去7シーズンで最高値(0.0116)を示しましたが、今シーズンは過去10シーズンで最低値(0.0093)となりました。

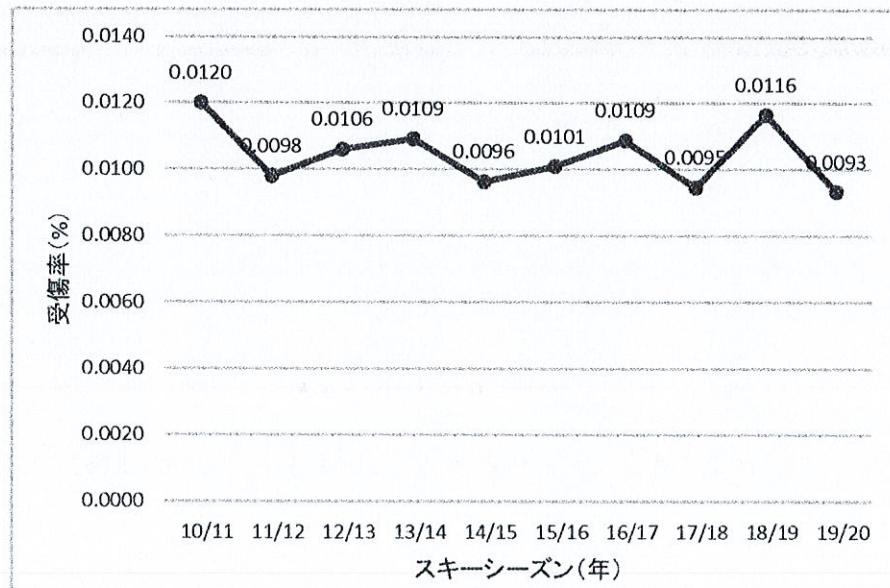


図4. 最近10シーズンの受傷率の推移

8. スキー受傷率およびスノーボード受傷率

図 5-1 に最近 10 シーズンのスキー及びスノーボードの受傷率の推移を示しました。

スキーは、11/12 シーズンに最低値 (0.0067%) を記録した後は微増傾向が続いていましたが、昨シーズンは過去 10 シーズンで最も高い値 (0.0096%) を記録し、今シーズンは平均値 (0.0079%) 近くに回復しました。スノーボードは、過去最低値 (0.0105%) を記録しました。

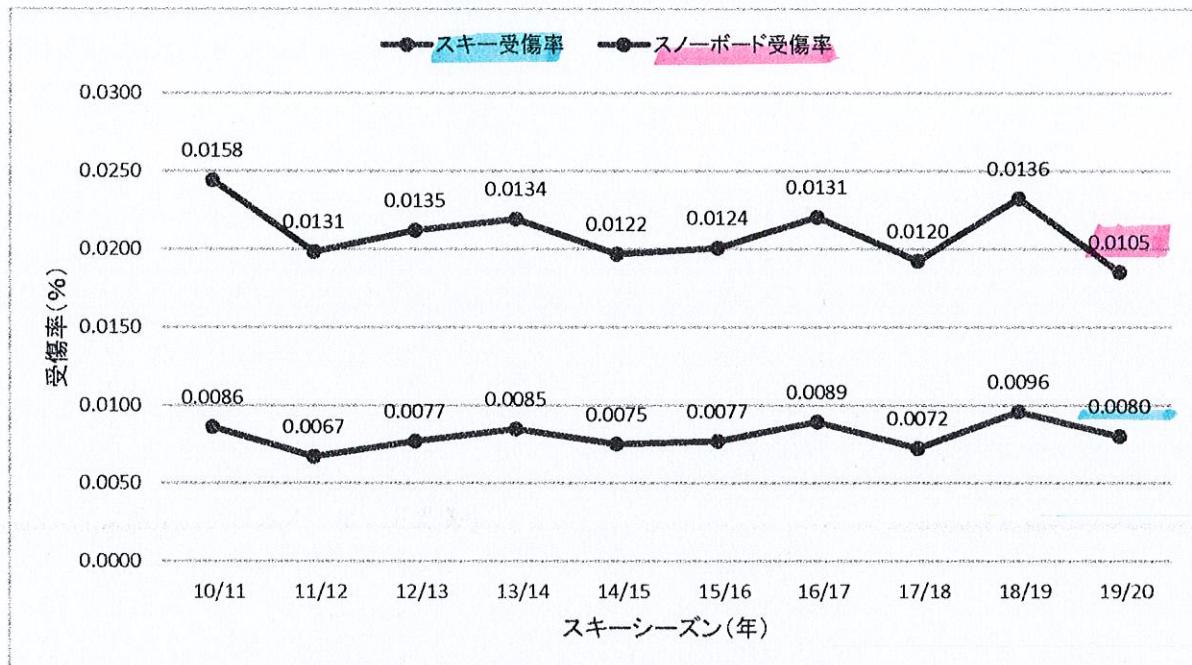


図 5-1. スキー及びスノーボード受傷率の推移

図 5-2 に、過去 20 年間の受傷率の推移を示しました。スノーボードの受傷率は明らかな減少傾向を示しているものの、スキーはほぼ横ばい（受傷率の改善が見られない）であることから、新たな対策が必要であることがうかがえます。

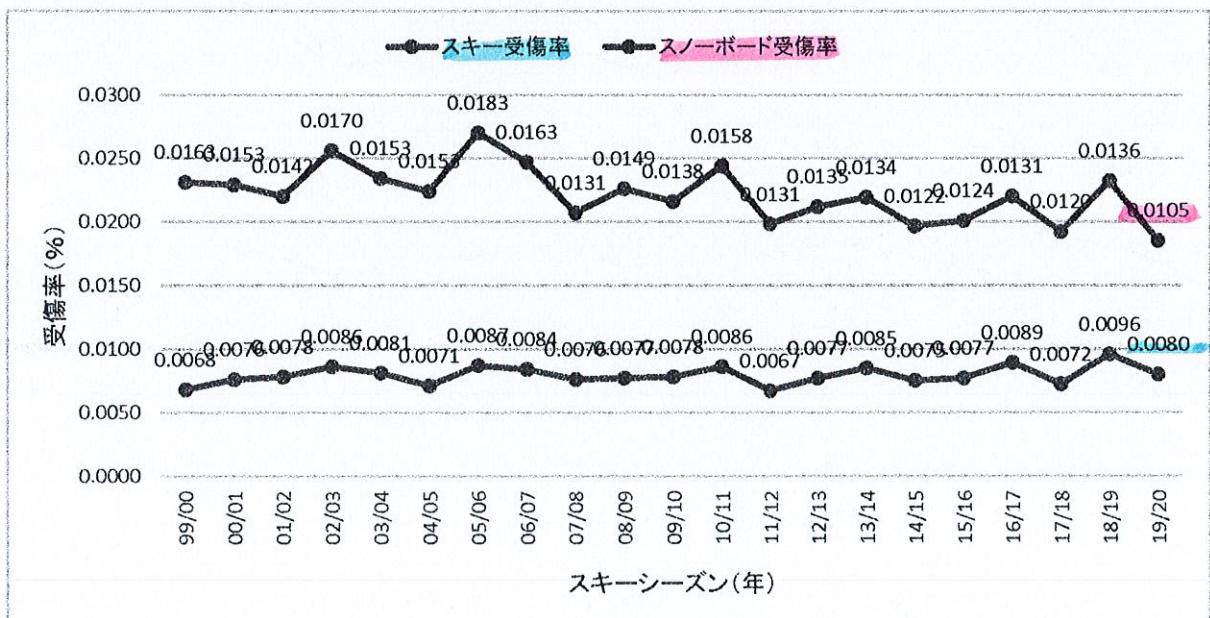


図 5-2. スキー・スノーボード受傷率の推移（過去 20 年間）

図5-3は、輸送人員を横軸に、傷害者数を縦軸にプロット・直線回帰分析したものです。分析結果より、受傷者数の変動は輸送人員の変動から、スキーヤーで76.5%，スノーボーダーで49.6%説明できることを表しています。すなわち、傷害者数の変動は輸送人員の変動から5~8割は説明できます。

尚、赤（スノーボード）の破線で囲まれたスキーフィールドは、直線回帰式から大きく外れており、スキーフィールド特有の問題点を抱えているか、特別な対策が必要なスキーフィールドと考えられます。

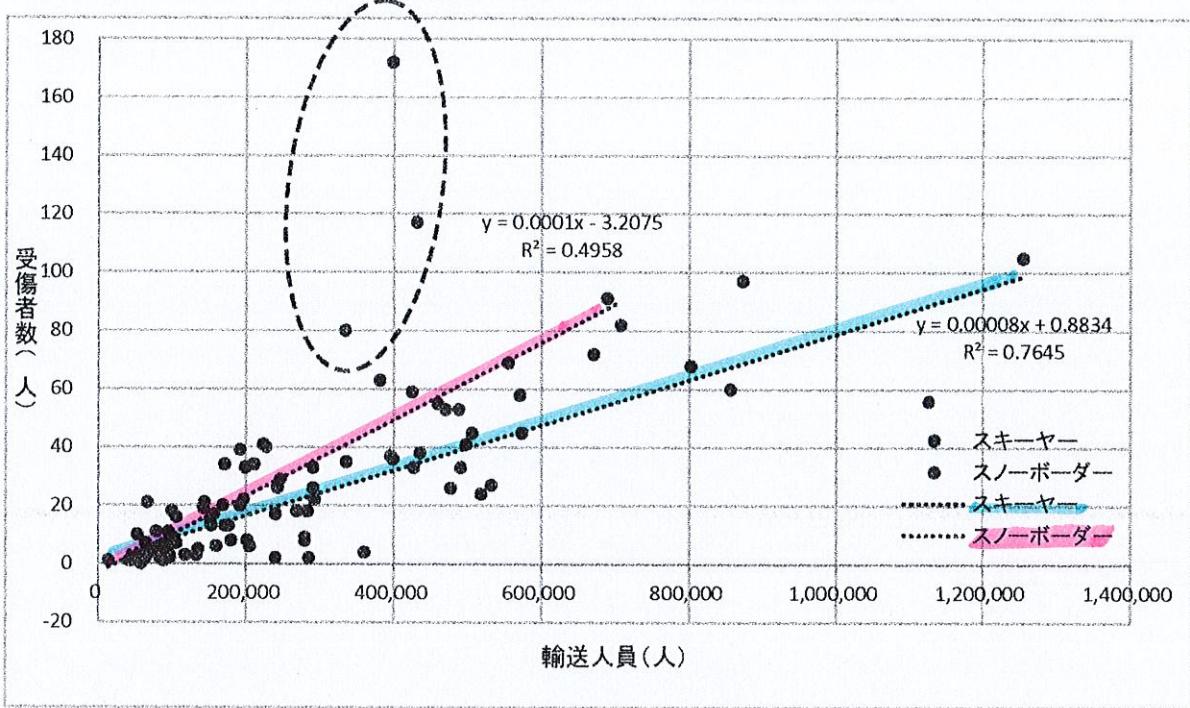


図5-3. 輸送人員と傷害者数

本報告書では、受傷率を輸送延べ人員に対する受傷者数の割合として計算しています。

例えば受傷率0.010%とは、リフト・ゴンドラ等の輸送人員1万人あたり受傷者1人を指し、10万人あたりでは10人、100万人あたりでは100人となります。

キー受傷率は、スキーヤー推計輸送人員に対するキー受傷者数の割合、スノーボード受傷率は、スノーボーダー推計輸送人員に対するスノーボード受傷者数の割合を示したものです。

なお、提出された集計表に書かれた傷害件数と調査用紙（個票）の数が一致しないスキーフィールドやケガ以外の疾病などが含まれている場合があるので、受傷率の計算は可能な限り実際の傷害件数を採用しました。したがって、スキーフィールドから報告された傷害件数と本報告書の傷害件数とが異なる場合がありますのでご了承ください。

表5は輸送人員、入り込み比率、及びキー・スノーボード別推計輸送人員です。

各スキーフィールドの受傷者数と受傷率は、表6に示しました。受傷率は、総輸送人員に対する受傷者数の割合を示したものです。

表7は、スキーヤー・スノーボーダーの入り込み比率の推移を示したものです。

表5. 輸送人員、入り込み比率及びスキー・スノーボード別推計輸送人員

番号	スキー場	輸送人員(人) 2020年2月	入り込み比率(%)		推計輸送人員(人)	
			スキーヤー	ボーダー	スキーヤー	ボーダー
1	ニセコグランヒラフ	1,426,076	60	40	855,646	570,430
2	朝里川温泉スキー場	224,183	80	20	179,348	44,837
3	サッポロティネスキーフィールド	796,805	65	35	517,923	278,882
4	札幌国際スキー場	372,442	54	46	201,119	171,323
5	ルスツリゾートスキー場	1,175,800	57	43	670,206	505,594
6	富良野スキー場	594,534	67	33	398,338	196,196
7	大鰐温泉スキー場	107,521	87	13	93,886	13,655
8	安比高原スキー場	533,402	63	37	334,976	198,426
9	みやぎ蔵王白石スキー場	106,610	60	40	63,966	42,644
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	237,000	40	60	94,800	142,200
11	猪苗代スキー場	165,824	60	40	99,494	66,330
12	裏磐梯猫魔スキー場	211,195	50	50	105,598	105,598
13	アルツ磐梯スキー場	377,570	40	60	151,028	226,542
14	会津高原たかつえスキー場	398,921	60	40	239,353	159,568
15	たざわ湖スキー場	254,174	60	40	152,504	101,670
16	蔵王温泉スキー場	1,197,000	67	33	801,990	395,010
17	苗場スキー場	992,872	50	49	497,429	490,479
18	石打丸山スキー場	966,898	55	45	531,794	435,104
19	舞子スノーリゾート	711,026	40	60	284,410	426,616
20	上越国際スキー場	818,510	70	30	572,957	245,553
21	六日町八海山スキー場	120,731	63	37	76,181	44,550
22	斑尾高原スキー場	556,498	40	60	222,599	333,899
23	野沢温泉スキー場	1,681,200	67	33	1,126,404	554,796
24	志賀高原スキー場	1,742,054	72	28	1,254,279	487,775
25	白馬五竜スキー場	1,088,136	35	65	380,848	707,288
26	白馬八方尾根スキー場	1,342,312	65	35	872,503	469,809
27	白馬岩岳スノーフィールド	383,175	50	50	191,588	191,588
28	樹池高原スキー場	1,147,967	40	60	459,187	688,780
29	立山山麓スキー場	161,315	60	40	96,789	64,526
30	白山一里野温泉スキー場	224,968	60	40	134,981	89,987
31	草津国際スキー場	435,426	64	36	279,108	156,318
32	スノーパーク尾瀬戸倉	195,570	60	40	117,342	78,228
33	万座温泉スキー場	258,688	68	32	175,649	83,039
34	ハンターマウンテン塩原	573,928	25	75	143,482	430,446
35	ダイナランド	568,487	30	70	170,546	397,941
36	SKI JAM 勝山スキー場	531,438	45	55	239,147	292,291
37	箱館山スキー場	220,631	60	40	132,379	88,252
38	ハチ北高原スキー場	707,000	40	60	282,800	424,200
39	びわ湖バレイスキー場	410,000	41	59	168,100	241,900
40	奥神鍋スキー場	115,673	50	50	57,837	57,837
41	ハチ高原スキー場	580,000	50	50	290,000	290,000
42	だいせんホワイトリゾート	744,907	64	36	476,740	268,167
43	芸北国際スキー場	292,002	30	70	87,601	204,401
44	恐羅漢スノーパーク	155,188	40	60	62,075	93,113
45	瑞穂ハイランド	263,092	20	80	52,618	210,474
46	ユートピアサイオト	449,628	20	80	89,926	359,702
47	久万スキーランド	139,000	30	70	41,700	97,300
合 計		26,757,377			14,529,151	12,223,262

表 6. 受傷率

番号	スキーフィールド	受傷者数(人)			受傷率(%)		
		合計	ボーダー	その他	合計	ボーダー	
1	ニセコグランヒラフ	118	60	58	0	0.0083	0.0070
2	朝里川温泉スキーフィールド	9	8	1	0	0.0040	0.0045
3	サッポロティネスキーフィールド	33	24	8	1	0.0041	0.0046
4	札幌国際スキーフィールド	21	8	13	0	0.0056	0.0040
5	ルスツリゾートスキーフィールド	117	72	45	0	0.0100	0.0107
6	富良野スキーフィールド	58	36	22	0	0.0098	0.0090
7	大鰐温泉スキーフィールド	8	7	1	0	0.0074	0.0075
8	安比高原スキーフィールド	68	35	33	0	0.0127	0.0104
9	みやぎ蔵王白石スキーフィールド	9	7	1	1	0.0084	0.0109
10	みやぎ蔵王えぼしスキーフィールド	30	11	19	0	0.0127	0.0116
11	猪苗代スキーフィールド	39	18	21	0	0.0235	0.0181
12	裏磐梯猫魔スキーフィールド	23	7	16	0	0.0109	0.0066
13	アルツ磐梯スキーフィールド	55	15	40	0	0.0146	0.0099
14	会津高原たかつえスキーフィールド	8	2	6	0	0.0020	0.0008
15	たざわ湖スキーフィールド	22	13	9	0	0.0087	0.0085
16	蔵王温泉スキーフィールド	105	68	37	0	0.0088	0.0085
17	苗場スキーフィールド	75	41	33	1	0.0076	0.0082
18	石打丸山スキーフィールド	65	27	38	0	0.0067	0.0051
19	舞子スノーリゾート	35	2	33	0	0.0049	0.0007
20	上越国際スキーフィールド	74	45	29	0	0.0090	0.0079
21	六日町八海山スキーフィールド	6	4	2	0	0.0050	0.0053
22	斑尾高原スキーフィールド	121	41	80	0	0.0217	0.0184
23	野沢温泉スキーフィールド	127	56	69	2	0.0076	0.0050
24	志賀高原スキーフィールド	160	105	53	2	0.0092	0.0084
25	白馬五竜スキーフィールド	145	63	82	0	0.0133	0.0165
26	白馬八方尾根スキーフィールド	150	97	53	0	0.0112	0.0111
27	白馬岩岳スノーフィールド	60	20	39	1	0.0157	0.0104
28	褐池高原スキーフィールド	146	55	91	0	0.0127	0.0120
29	立山山麓スキーフィールド	5	3	2	0	0.0031	0.0031
30	白山一里野温泉スキーフィールド	10	5	5	0	0.0044	0.0037
31	草津国際スキーフィールド	26	9	17	0	0.0060	0.0032
32	スノーパーク尾瀬戸倉	14	3	11	0	0.0072	0.0026
33	万座温泉スキーフィールド	15	13	2	0	0.0058	0.0074
34	ハンターマウンテン塩原	140	21	117	2	0.0244	0.0146
35	ダイナランド	206	34	172	0	0.0362	0.0199
36	SKI JAM 勝山スキーフィールド	39	17	22	0	0.0073	0.0071
37	箱館山スキーフィールド	4	3	1	0	0.0018	0.0023
38	ハチ北高原スキーフィールド	77	18	59	0	0.0109	0.0064
39	びわ湖パライスキーフィールド	46	20	26	0	0.0112	0.0119
40	奥神鍋スキーフィールド	0	0	0	0	0.0000	0.0000
41	ハチ高原スキーフィールド	59	33	26	0	0.0102	0.0114
42	だいせんホワイトリゾート	44	26	18	0	0.0059	0.0055
43	芸北国際スキーフィールド	8	2	6	0	0.0027	0.0023
44	恐羅漢スノーパーク	7	3	4	0	0.0045	0.0048
45	瑞穂ハイランド	44	10	34	0	0.0167	0.0190
46	ユートピアサイオト	10	6	4	0	0.0022	0.0067
47	久万スキーランド	3	1	2	0	0.0022	0.0024
合計		2,644	1,174	1,460	10	0.0093	0.0080
							0.0105

表7. スキーヤー・スノーボーダーの入り込み比率の推移
(スキーヤーの比率:スノーボーダーの比率)

番号	スキー場	2016年2月	2017年2月	2018年2月	2019年2月	2020年2月
1	ニセコグランヒラフ	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40
2	朝里川温泉スキー場	80 : 20	80 : 40	60 : 40	80 : 40	80 : 20
3	サッポロテインスキー場	60 : 40	60 : 40	55 : 35	60 : 35	65 : 35
4	札幌国際スキー場	50 : 45	62 : 47	50 : 47	53 : 47	54 : 46
5	ルスツリゾートスキー場	54 : 46	55 : 45	50 : 40	56 : 40	57 : 43
6	富良野スキー場	62 : 16	63 : 17	84 : 17	69 : 17	67 : 33
7	大鰐温泉スキー場	72 : 7	70 : 7	61 : 12	69 : 12	71 : 13
8	安比高原スキー場	16 : 24	10 : 29	11 : 30	16 : 30	13 : 37
9	みやぎ蔵王白石スキー場	40 : 40	40 : 40	60 : 40	50 : 40	40 : 40
10	みやぎ蔵王えぼしスキー場	50 : 50	50 : 50	58 : 50	40 : 50	46 : 60
11	猪苗代スキー場	40 : 60	40 : 50	50 : 40	80 : 40	60 : 40
12	裏磐梯猫魔スキー場	40 : 60	10 : 30	50 : 50	30 : 50	50 : 50
13	アルツ磐梯スキー場	60 : 40	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60
14	会津高原たかつえスキー場	40 : 40	40 : 40	50 : 50	40 : 50	40 : 40
15	たざわ湖スキー場	41 : 26	40 : 30	40 : 30	60 : 30	40 : 40
16	蔵王温泉スキー場	37 : 33	35 : 31	35 : 33	35 : 33	33 : 33
17	苗場スキー場	40 : 40	40 : 55	40 : 48	53 : 48	40 : 49
18	石打丸山スキー場	50 : 50	50 : 60	50 : 50	60 : 50	45 : 45
19	舞子スノーリゾート	48 : 57	43 : 77	40 : 61	40 : 61	40 : 60
20	上越国際スキー場	40 : 60	40 : 40	30 : 40	20 : 40	40 : 30
21	六日町八海山スキー場	40 : 40	40 : 40	40 : 40	65 : 65	37 : 37
22	斑尾高原スキー場	40 : 40	52 : 47	31 : 45	55 : 45	40 : 60
23	野沢温泉スキー場	40 : 35	40 : 33	40 : 35	40 : 35	40 : 33
24	志賀高原スキー場	45 : 46	46 : 24	47 : 29	45 : 29	47 : 28
25	白馬五竜スキー場	65 : 35	60 : 40	40 : 40	60 : 40	30 : 65
26	白馬八方尾根スキー場	78 : 22	70 : 30	40 : 30	70 : 30	40 : 35
27	白馬岩岳スノーフィールド	40 : 70	62 : 48	40 : 49	55 : 49	50 : 50
28	梅池高原スキー場	70 : 30	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60
29	立山山麓スキー場	50 : 50	50 : 50	40 : 40	60 : 40	40 : 40
30	白山一里野温泉スキー場	60 : 40	40 : 50	70 : 30	80 : 30	60 : 40
31	草津国際スキー場	44 : 36	40 : 36	40 : 29	65 : 29	40 : 36
32	スノーパーク尾瀬戸倉	50 : 60	45 : 55	45 : 55	45 : 55	30 : 40
33	万座温泉スキー場	40 : 29	70 : 30	70 : 30	40 : 30	65 : 32
34	ハンターマウンテン塩原	40 : 70	40 : 60	30 : 70	30 : 70	20 : 75
35	ダイナランド	42 : 68	40 : 70	45 : 65	35 : 65	40 : 70
36	SKI JAM 勝山スキー場	47 : 56	48 : 55	60 : 50	40 : 60	40 : 55
37	箱館山スキー場	47 : 33	48 : 35	44 : 29	44 : 29	40 : 40
38	ハチ北高原スキー場	56 : 62	40 : 70	44 : 60	40 : 60	40 : 60
39	びわ湖パライススキー場	45 : 65	40 : 60	44 : 57	56 : 57	44 : 58
40	奥神鍋スキー場	40 : 60	50 : 50	50 : 50	50 : 50	50 : 50
41	ハチ高原スキー場	50 : 50	40 : 60	60 : 40	60 : 40	50 : 50
42	だいせんホワイトリゾート	62 : 34	35 : 65	42 : 28	65 : 28	64 : 36
43	芸北国際スキー場	40 : 60	38 : 62	35 : 70	30 : 70	30 : 70
44	恐羅漢スノーパーク	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60
45	瑞穂ハイランド	42 : 68	40 : 60	40 : 60	28 : 60	20 : 80
46	ユートピアサイオト	40 : 60	40 : 60	30 : 40	40 : 40	20 : 80
47	久万スキーランド	48 : 83	49 : 81	68 : 32	34 : 32	30 : 70
	平均	54.3 : 45.7	53.2 : 46.8	56.6 : 43.4	54.1 : 43.8	52.6 : 47.3

9. 受傷時間帯

図 6 は時刻毎に発生した受傷数を示したものです。スキー場内のケガ全体では 11 時～12 時と 14～15 時に多発しています。スキーもスノーボードも 11 時台が一番多く発生していました。時間帯による受傷数に 2 峰性が観られる原因として、混雑、雪質や雪の状態の変化、疲労など人的・環境的要因が影響しているものと考えられます。12 時と 13 時台が減少しているのは、昼食時間帯のためと考えられます。受傷数が多い時間帯（特に昼食時間帯前）は注意して行動しましょう。

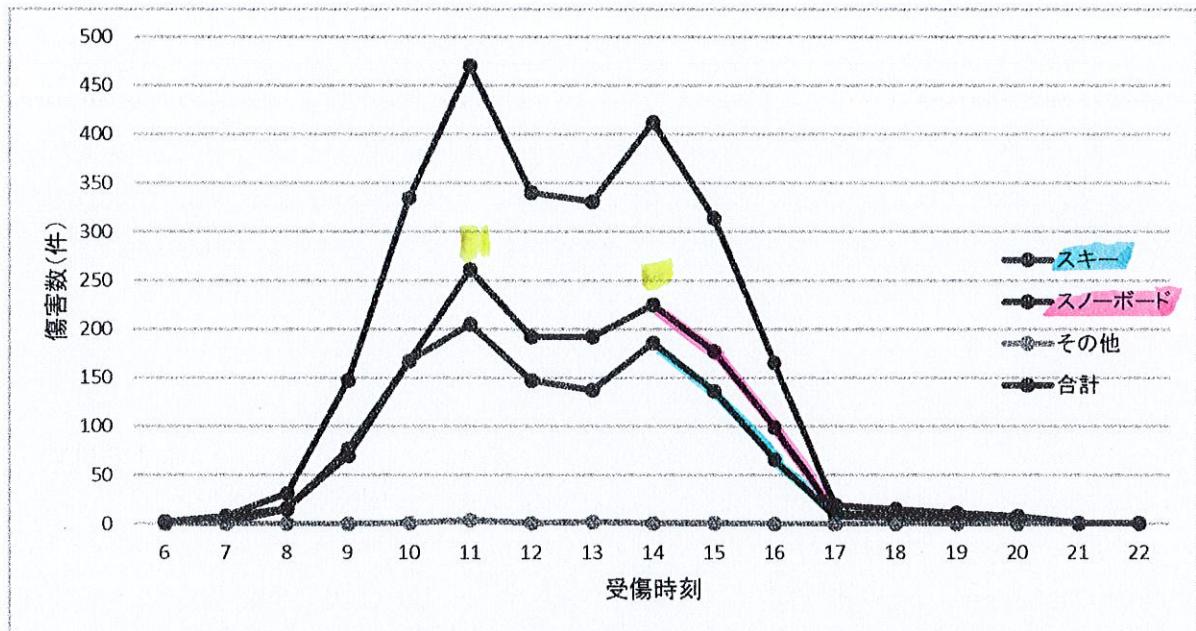


図 6. 受傷時間帯

10. 天候

図7-1は受傷時の天候です。晴れが46.1%と約半数を占めました。晴れた日にはスキー場の入込が多くなり、スピードも出やすくなるので、天候が傷害発生の間接的原因の一つと思われます。

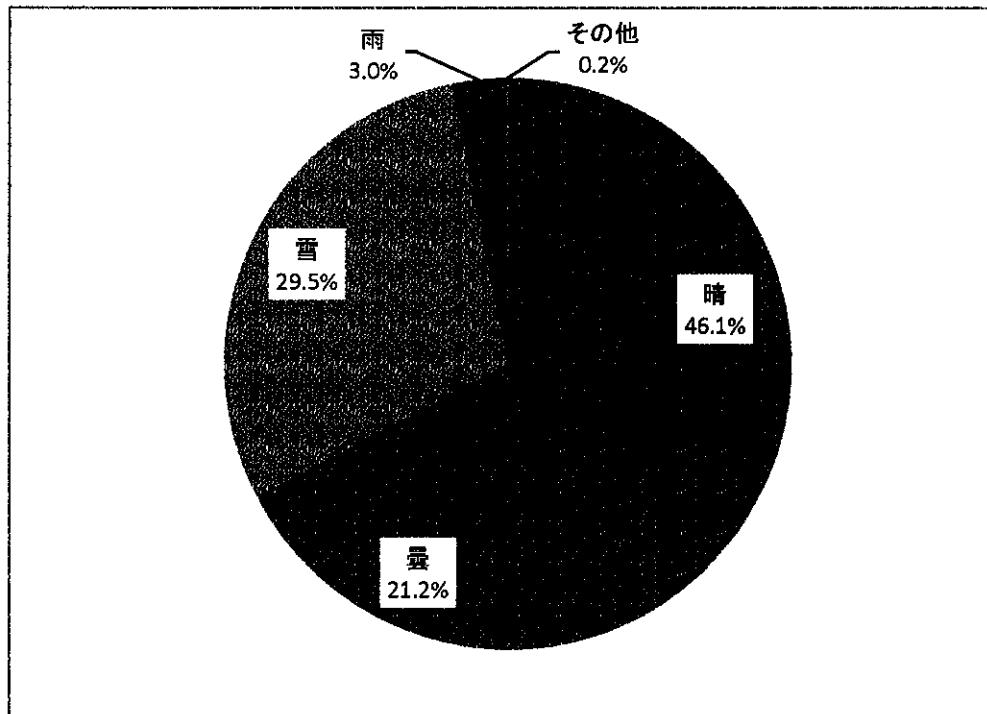


図7-1. 天候

図7-2は、2月の傷害発生数と天候の内訳を示しています。グラフから、傷害発生数は、休日は平日の2~3倍多く、日曜日よりは土曜日が多く、休日が晴天だと傷害発生数も多いことがわかります。今シーズンの3連休初日は雨のところが多く、例年より傷害発生数が少なくなりました。

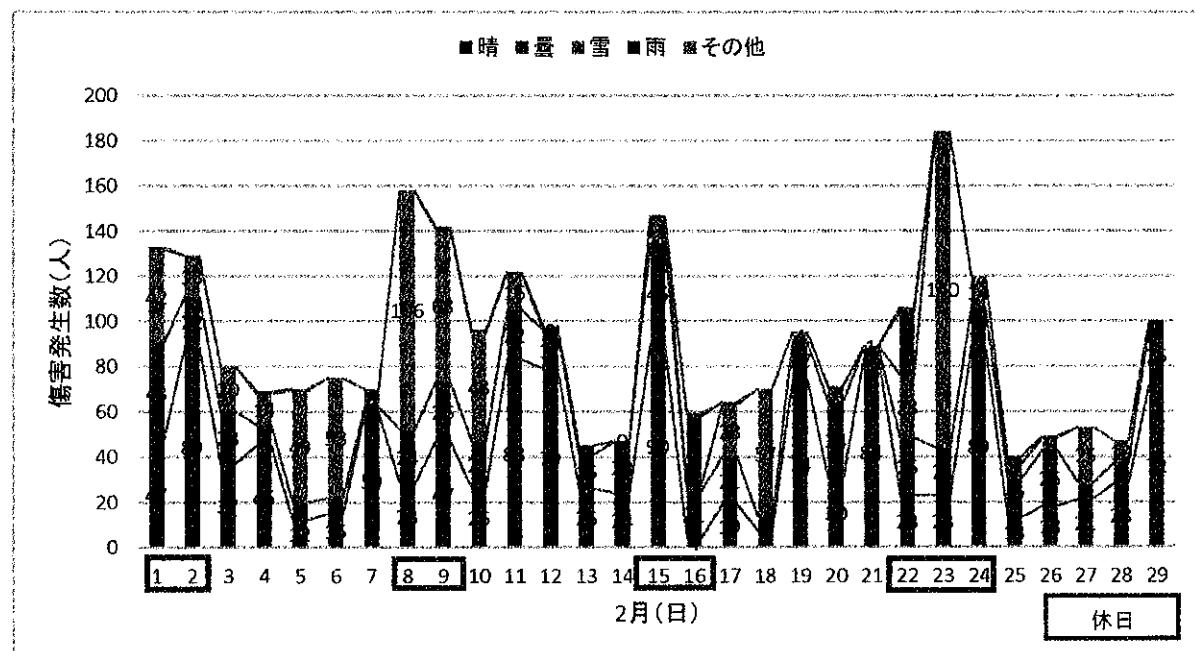


図7-2. 2月の傷害発生数と天候内訳

11. 性別

図8は受傷者の性別を示したものです。「合計」とはスキー、スノーボード、ソリ・その他を合計したものです。

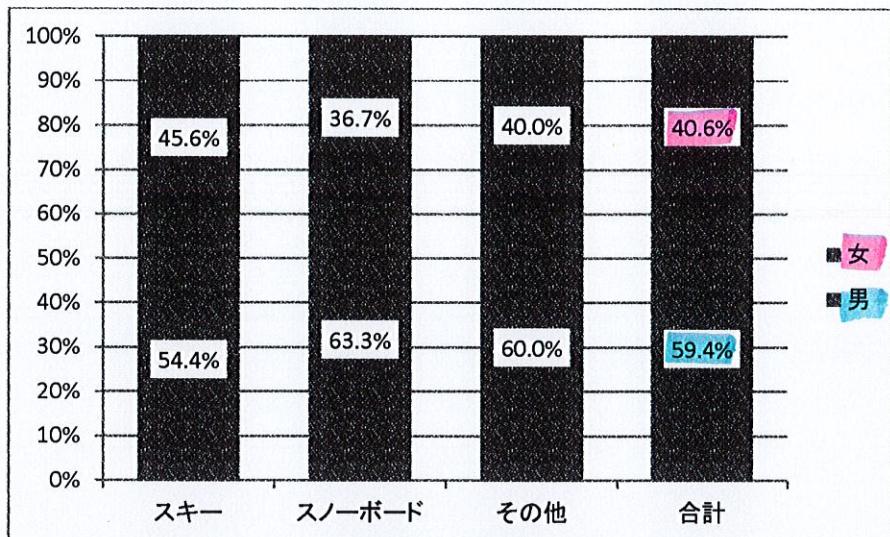


図8. 性別

12. 年齢

図9は受傷者の年代を示したものです。スキーの受傷者は、10歳代が17.8%と最も多く、次いで20歳代 (17.0%)、50歳代 (15.7%)、40歳代 (13.5%)、60歳代 (11.9%)と続き、80歳以上で1.1% (50歳代以上合計34.0%)と、スノーボードに比べ年齢層が広く、高齢者の割合も多いことが分かります。スノーボードの受傷者は30歳代以下が全体の86.5%を占め、スキーに比べて若年層が圧倒的に多いことがわかります。

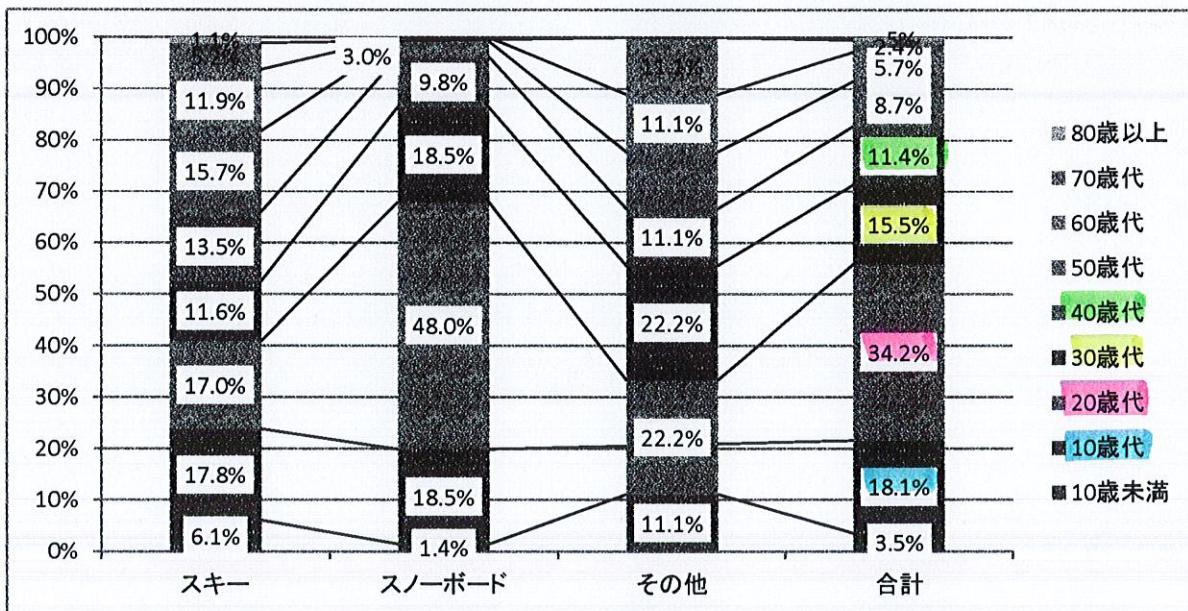


図9. 年齢

13. 技能

図10-1 は受傷者の技能を示したものです。スノーボードの受傷者は「初めて・初級者」が53.5%を占めるのに対して、スキーは中級と上級合わせて53.7%を占めています。

「合計」とはスキー、スノーボード及びその他の受傷者を合計したものです。

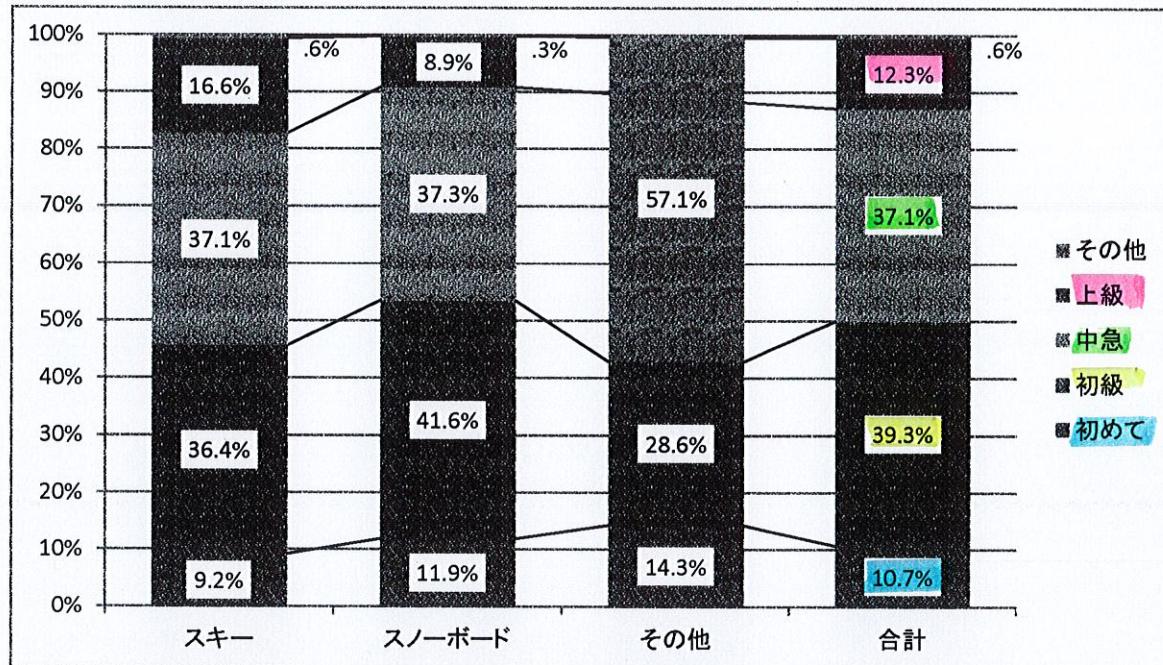


図 10-1. 技能

図10-2 は受傷者の技能を性別に示したものです。スキー・スノーボードの受傷者とも技能レベルは男性が女性より高くなっています。これは、スキー、スノーボードの愛好者の人口そのものが、男性が女性より上級者の占める割合が高いことと関連があると思われます。

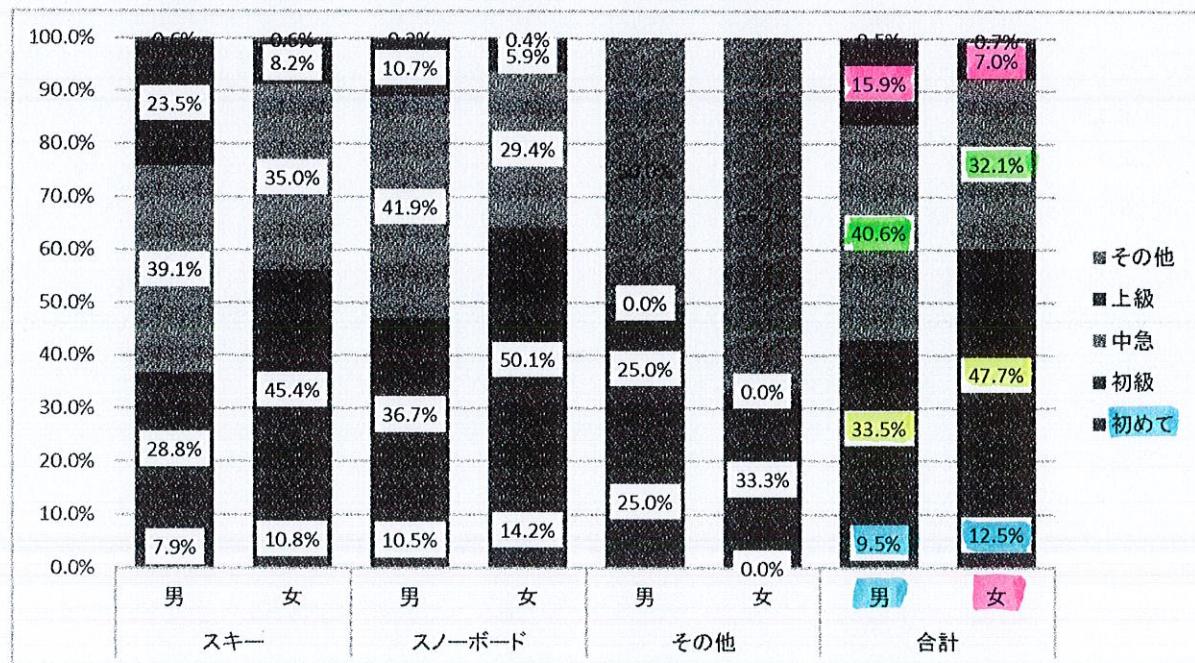


図 10-2. 性別技能

14. 受傷場所

図 11-1 は受傷場所を斜面別に、図 11-2 はパークの種別を示したものです。スノーボードでは、「ワンメイク」での受傷の割合がスキーと比べて 4 ポイント高くなっています。スノーボードの「その他の場所」では、ボックス、キッカー、FRP、レールが多く見られました。

図 11-3 は、リフト乗り場・乗車中・降り場での傷害数を示し、乗り場より降り場でのケガが多く、特にスノーボーダーで多いことがわかります。

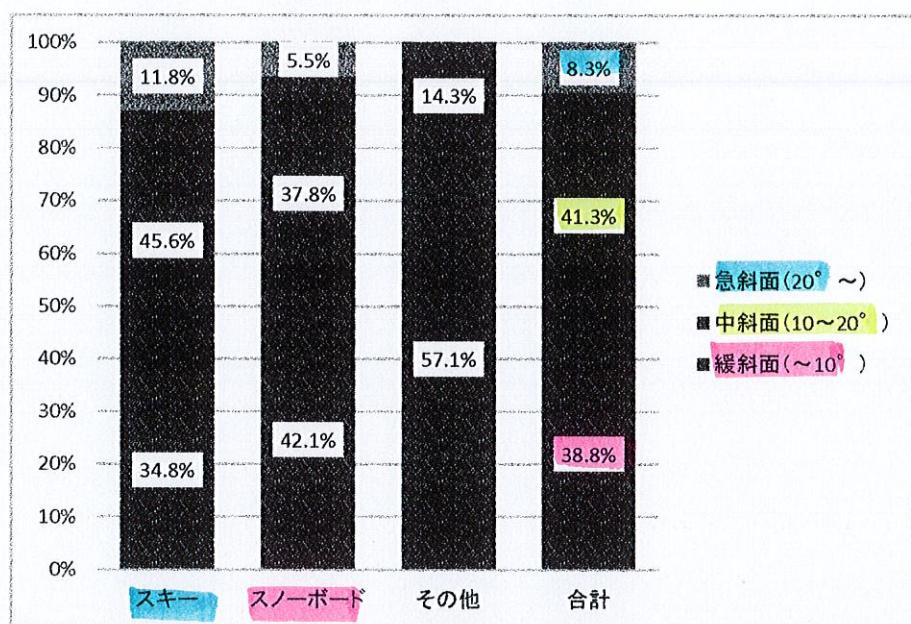


図 11-1. 受傷場所（斜面）

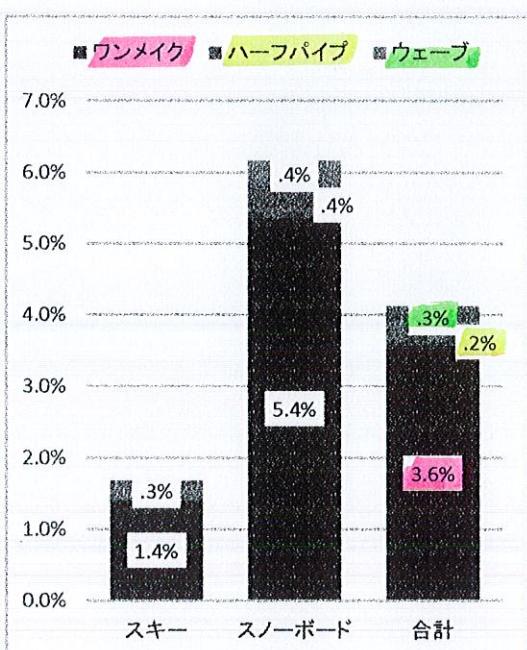


図 11-2. 受傷場所（パーク）

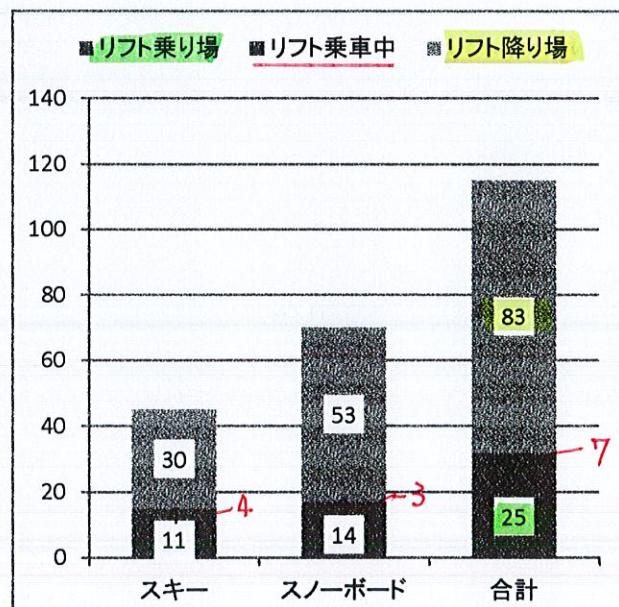


図 11-3. リフト乗り場・乗車中・降り場の傷害数

15. 受傷原因

図12-1 は受傷原因を示したものです。スキー、スノーボードとともに「自分で転倒」の割合が最も高くなっています。「人と衝突」の割合は、スキーがスノーボードより4.1ポイント高率でした。

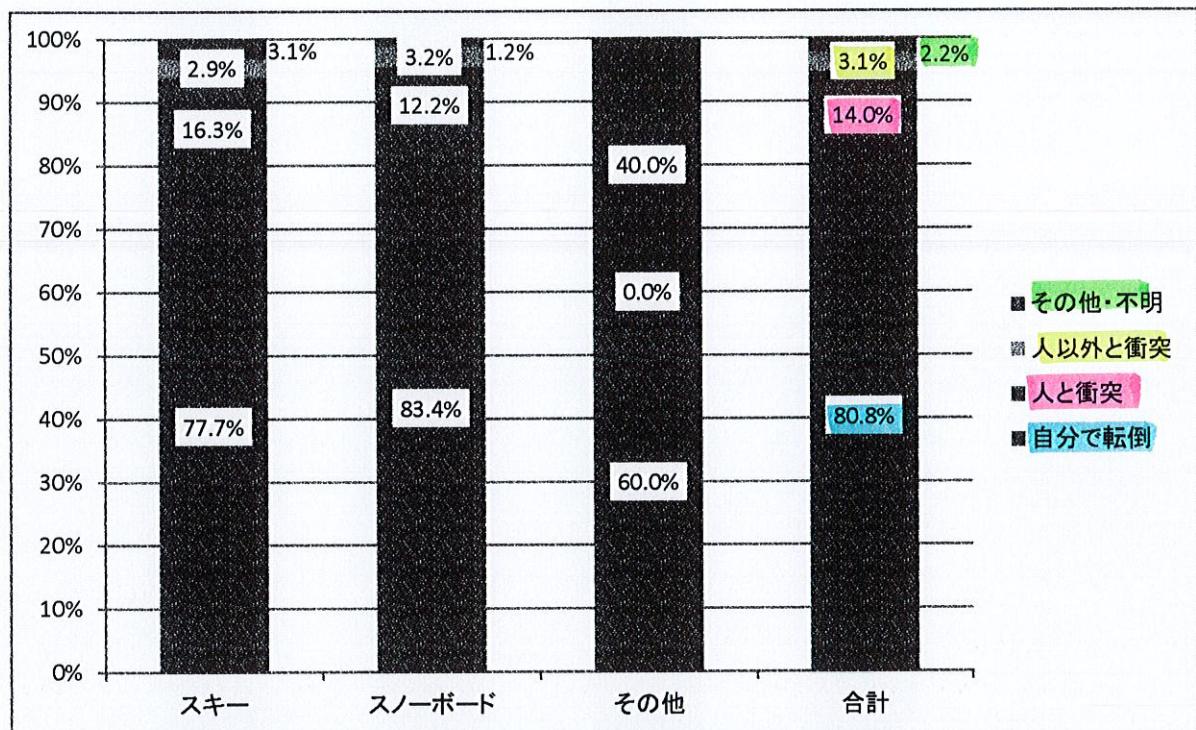


図 12-1. 受傷原因

図 12-2 は受傷原因のうち「自分で転倒」についての内訳です。スキー、スノーボードとも「バランスを崩して転倒」の割合が最も高く、スキーでは 88.2%，スノーボードでは 75.3%を占めました。スノーボードの「ジャンプ失敗」「トリック失敗」は合わせて 11.4%でした。

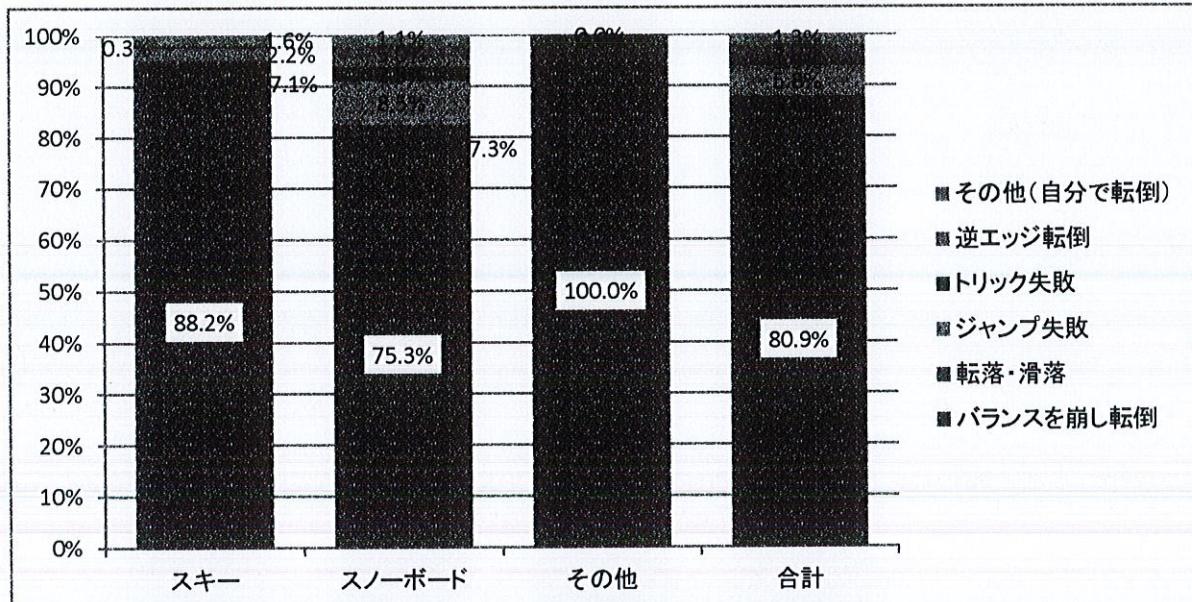


図 12-2. 受傷原因「自分で転倒」の内訳

図12.3 は受傷原因のうち「人と衝突」についての内訳です。スノーボードでは、スノーボーダー同士の衝突が約75.7%と高率でした。それに対してスキーヤーは、「スキーヤー」「スノーボーダー」との衝突は共に約半数を占めました。

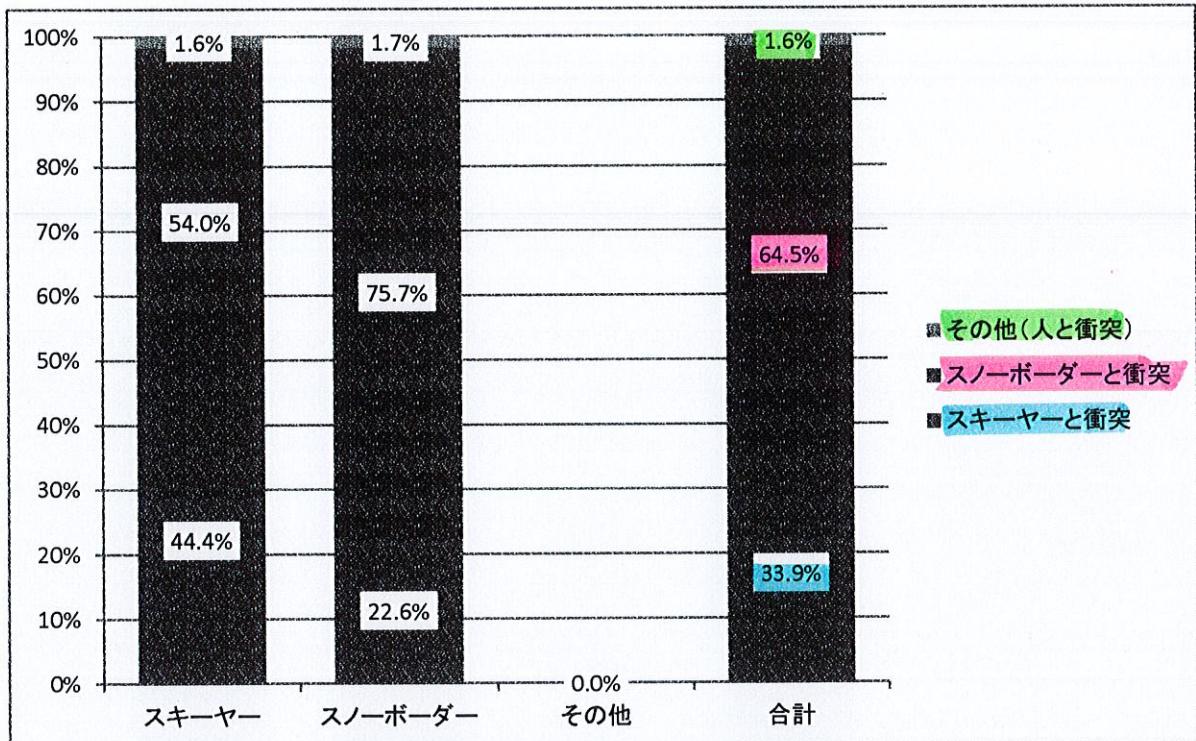


図 12-3. 受傷原因「人と衝突」の内訳

受傷原因のうち「人以外との衝突」で最も多かったのは「立ち木」で、スキー19件、スノーボードで25件でした。次に「その他の物」との衝突も多く、スキー12件、スノーボードで15件でした。

※ 衝突相手の確認について

「人と衝突」したのは366件でした。このうち「相手の確認」の有無の欄に回答した212件中、140件(66.0%)が衝突の相手を「確認している」、72件(34.0%)が「不明」と回答していました。

※ 飲酒について

スキー、スノーボードで飲酒の有無欄に記載があったのは2,065件で、このうち「飲酒」とあったのは45件(2.2%)でした。

16. 傷害の部位と種類

傷害の部位と種類は、調査用紙に記入された1番から4番のすべてを合計した受傷数（応答数）です。すなわち、一人で複数箇所（最大4箇所まで）をけがした場合でもすべて集計してあります（重複回答）。図中のnは集計の対象とした受傷数（応答数）です。

1) スキーの傷害部位と種類

図13-1 はスキー（アルペンスキー、スキーボード、テレマークスキー、その他のスキー）を合計した傷害の部位です。膝が最も多く（28.4%），肩（11.0%），下腿（10.0%），頭部（7.7%），足首（7.2%）の順に多く受傷していました。この上位5部位で全傷害の64.3%を占めました。

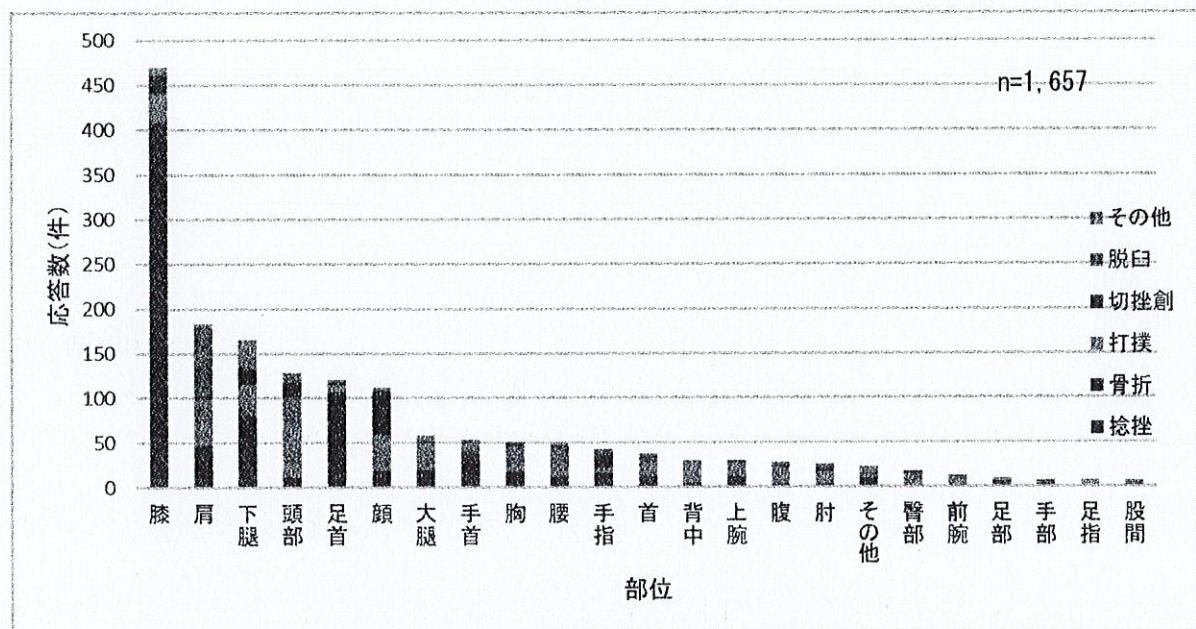


図 13-1. スキーの傷害部位と種類(重複回答)

図13-2 はスキーにおける「自分で転倒」の場合の傷害部位と種類について、上位5部位を示しています。膝が最も多く35.4%を占め、膝の約86%が捻挫、肩の36%が脱臼、下腿の49%が骨折でした。

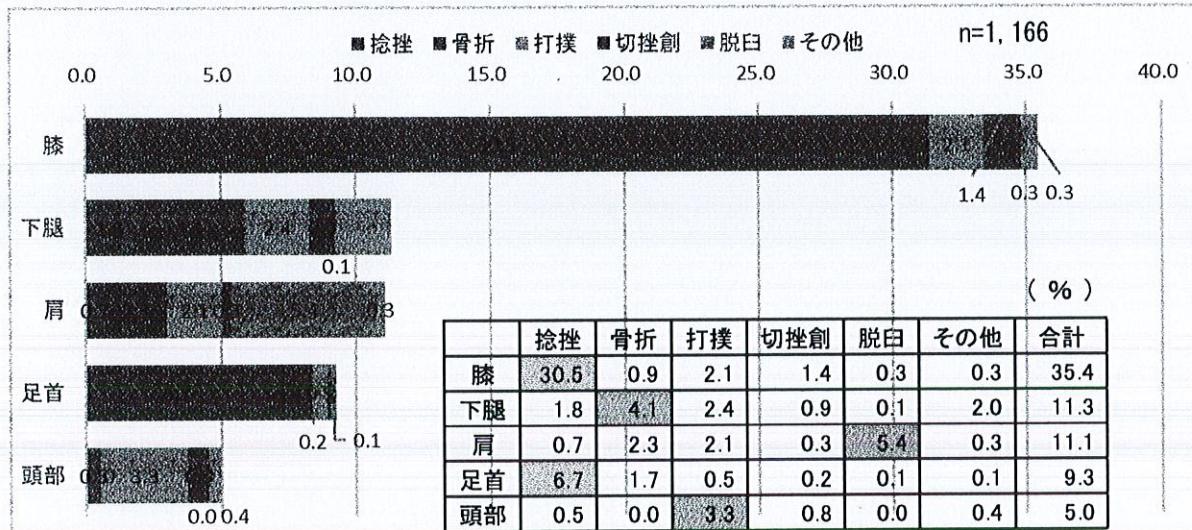


図13-2. スキーにおける「自己転倒」時の傷害部位と種類(重複回答)

2) スノーボードの傷害部位と種類

図13-3はスノーボード(フリースタイルスノーボード, アルペンスノーボード, その他のスノーボード)を合計した傷害部位と種類です。肩(17.7%), 手首(15.4%), 頭部(9.6%), 肘(7.0%), 膝(6.8%)の順に多く受傷しています。この上位5部位で全傷害の56.5%を占めました。肩と上肢の合計は50.6%に達し, スキーの下肢の合計(49.1%)と比べて対照的で, スノーボードでは上肢のケガが多いことがわかります。

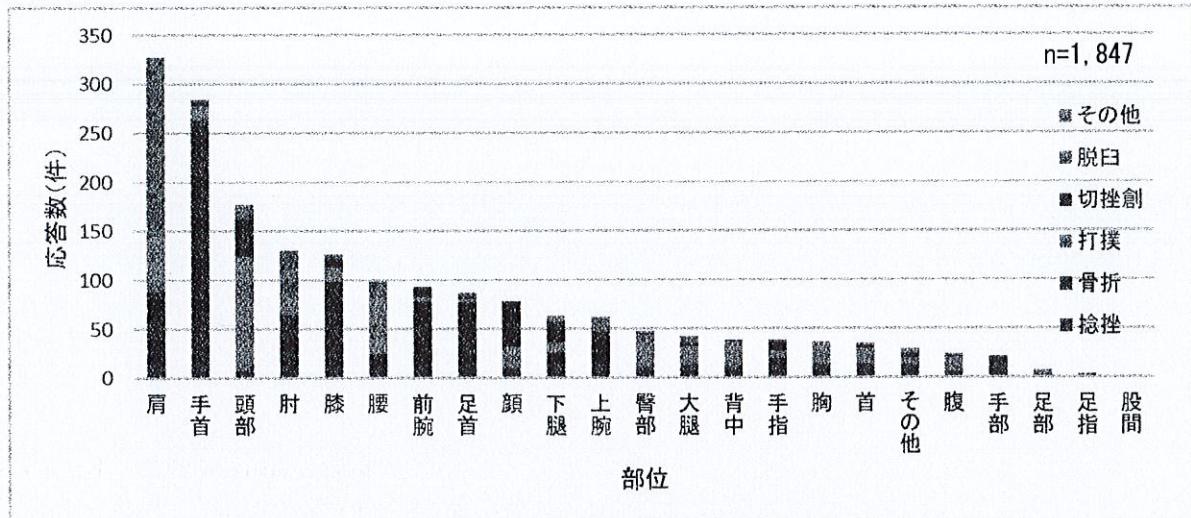


図13-3. スノーボードの傷害部位と種類(重複回答)

図13-4はスノーボードにおける「自分で転倒」の場合の傷害部位と種類について、上位5部位を示しました。肩と手首の割合が多く、肩の57.8%が脱臼、手首の69.4%が骨折でした。手首と前腕の骨折を合わせると全傷害の38.0%を占めました。頭部のケガの88%が骨折・打撲・切挫創であることから、ヘルメット着用の重要性を示しています。

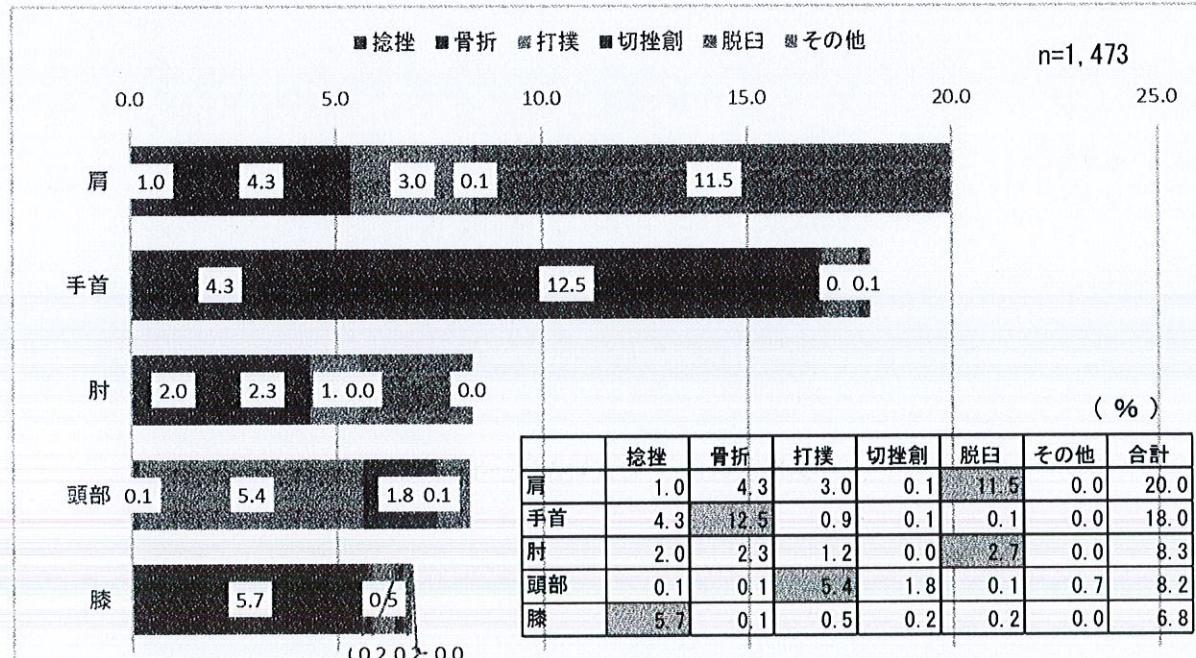


図13-4. スノーボードにおける「自己転倒」の傷害部位と種類(重複回答)

3) ソリの傷害

ソリの受傷は10件で、傷害の程度は1件が重傷、5件が中等傷でした。表8にその受傷概況を示しました。

表 8. ソリの傷害の概況

NO	性別	年齢	用具	受傷場所	受傷原因	部位	種類	傷害程度
1	男	45	その他のソリ	緩斜面(~10°)	その他	顔	切挫創	軽傷(さほど必要なし)
2	男	7	その他	緩斜面(~10°)	その他	顔	切挫創	軽傷(さほど必要なし)
3	男				原因不明			
4	女	24	腰掛ソリ	緩斜面(~10°)	バランスを崩し転倒	顔	骨折	重傷(緊急に必要)
5	女	20	腰掛ソリ	中斜面(10~20°)	バランスを崩し転倒	顔	骨折	中等傷(必要あり)
6	男	34	腰掛ソリ		バランスを崩し転倒	顔	切挫創	中等傷(必要あり)
7	男	33	腰掛ソリ	緩斜面(~10°)	バランスを崩し転倒	下腿	切挫創	中等傷(必要あり)
8	女	73	その他		バランスを崩し転倒	顔	打撲	中等傷(必要あり)
9	女	55	その他	スキー場エリア外	バランスを崩し転倒	前腕	骨折	中等傷(必要あり)
10	男	62		その他	その他	大腿	その他	

17. 傷害程度

図14は傷害の程度を示したものです。重傷の割合はスキーとスノーボードほぼ同様で、中等傷ではスノーボードがスキーに比べて11.7ポイント大きかった。合計で、中～重傷を合わせると72.7%を占め、スノースポーツにおける傷害の程度が決して軽くないことがわかります。シーズン中の死亡事故については、資料1～3をご覧ください。

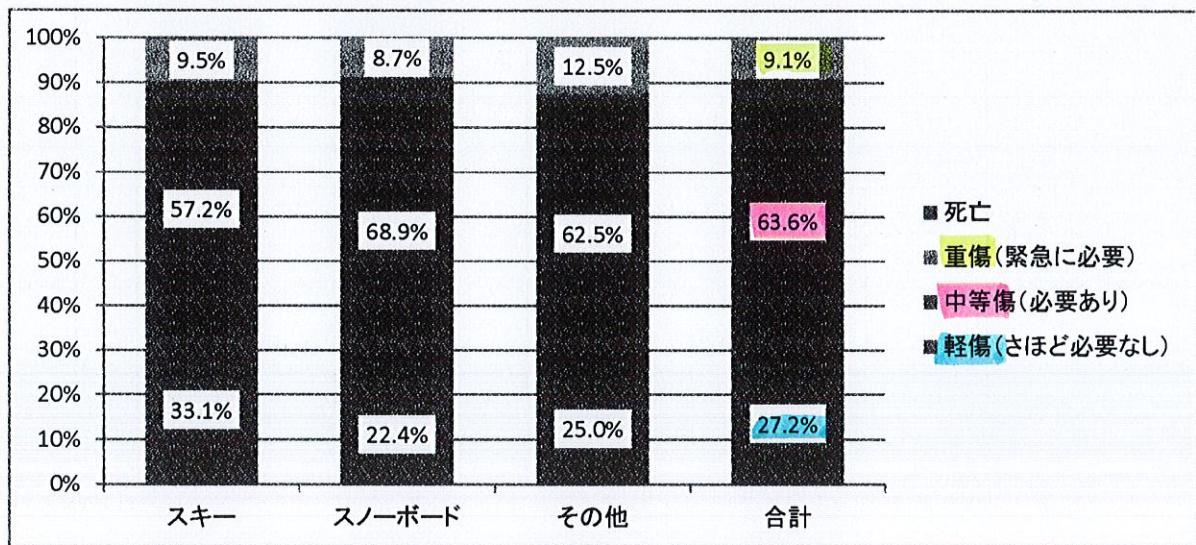


図 14. 傷害程度

18. 頭を強く打った疑い

図15は「頭を強く打った疑い」の割合です。スキーもスノーボードも11~12%台の高率で頭部を強打していることから、ヘルメットの着用が勧められます。また、頭部強打の際に頸椎損傷も同時に起こる可能性が高いので受傷後注意が必要です。

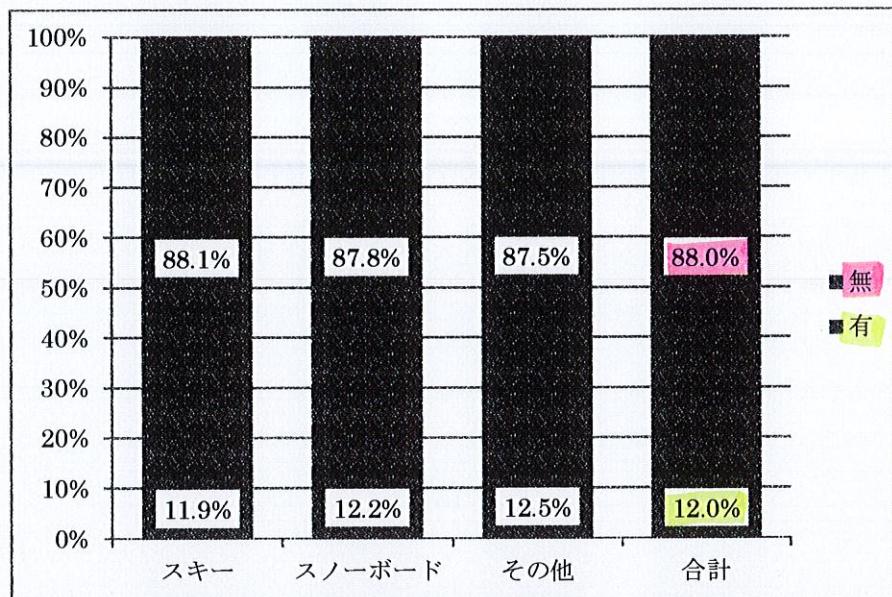


図 15. 頭を強く打った疑い

19. ヘルメットの着用状況

図16-1は受傷時のヘルメット着用の有無です。スキーでは、昨シーズンの43.2%~48.2%と5.0ポイント増加、スノーボードでは22.9%から24.4%と1.5ポイント増加しました。欧米のヘルメット着用率の約8割には到底及びませんが、スキーヤーのヘルメット着用率5割が目前となってきました。さらなる啓蒙活動が望まれます。

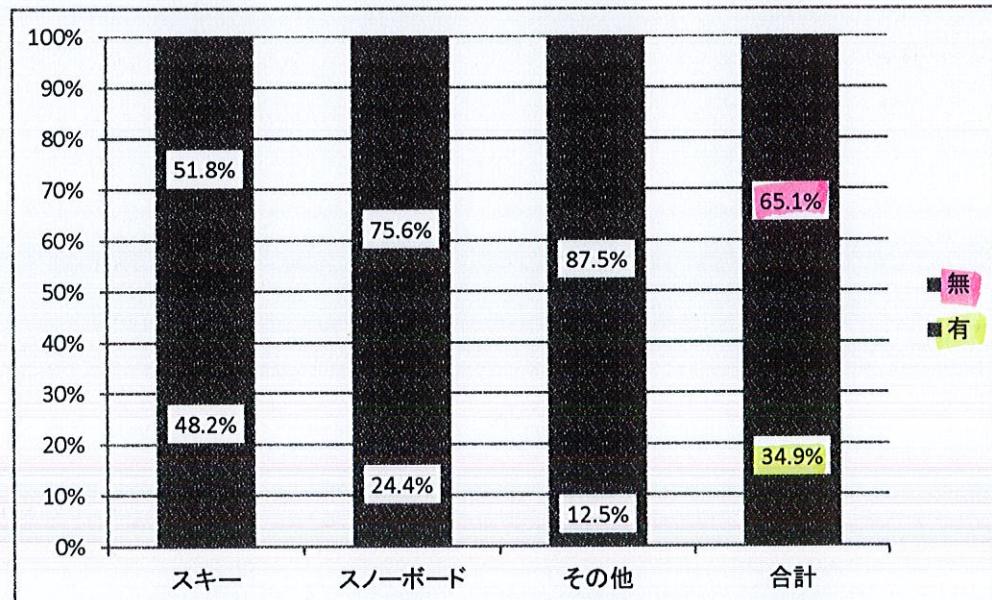


図 16-1. ヘルメット着用の有無

図16-2に、過去10シーズンのヘルメット着用率の推移について、スキーとスノーボード別に示しました。スキー・スノーボードとともに増加傾向が続いているが、スキーでやっと5割台が目前となっていました。さらなる啓蒙活動が必要です。

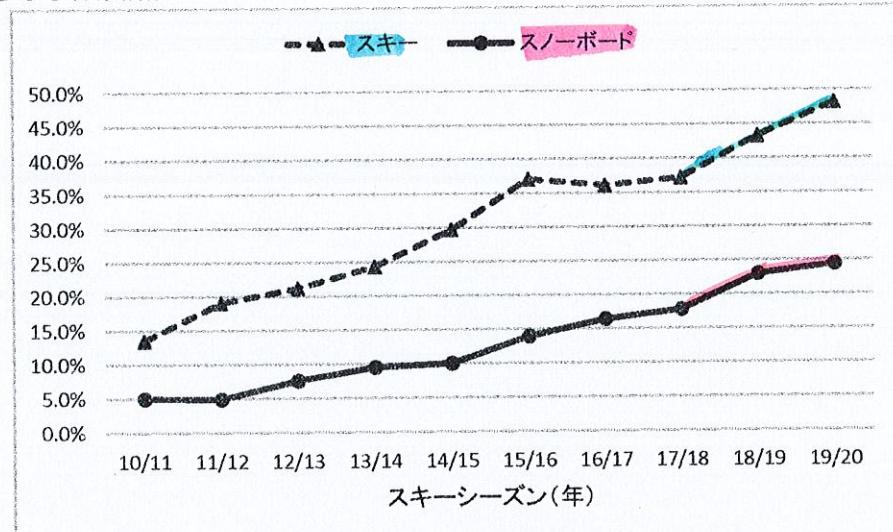


図16-2. ヘルメット着用率の推移

20. 保険の加入状況

1) 傷害保険の加入状況

図17-1は受傷者の傷害保険の加入状況を示し、スキーの受傷者の方がスノーボードの受傷者よりも12.5ポイント加入率が高率でした。加入しているかどうかがわからない受傷者が、スキー・スノーボードで39.0%~42.8%存在することは驚きです。さらなる保険加入への啓蒙活動が必要です。

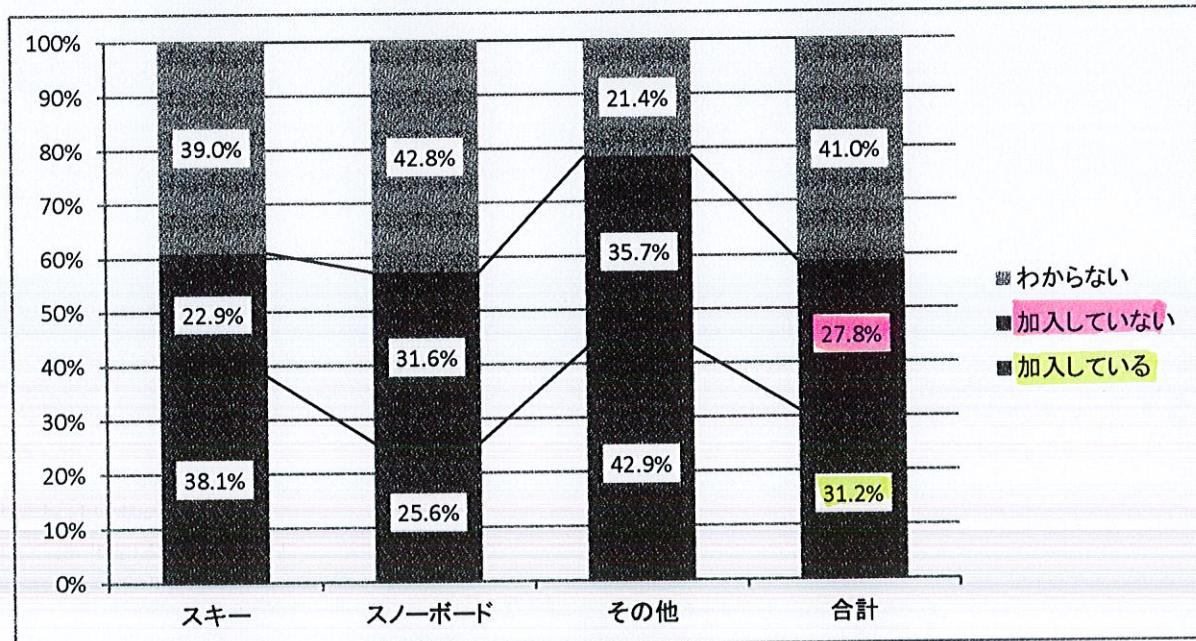


図17-1. 傷害保険の加入状況

2) 賠償責任保険の加入状況

図17-2 は受傷者の賠償責任保険の加入状況です。傷害保険と同様にスキーの受傷者の方がスノーボードの受傷者よりも10.4ポイント高率でした。加入しているかどうかがわからない受傷者が、スキー・スノーボードも約5割以上もいました。

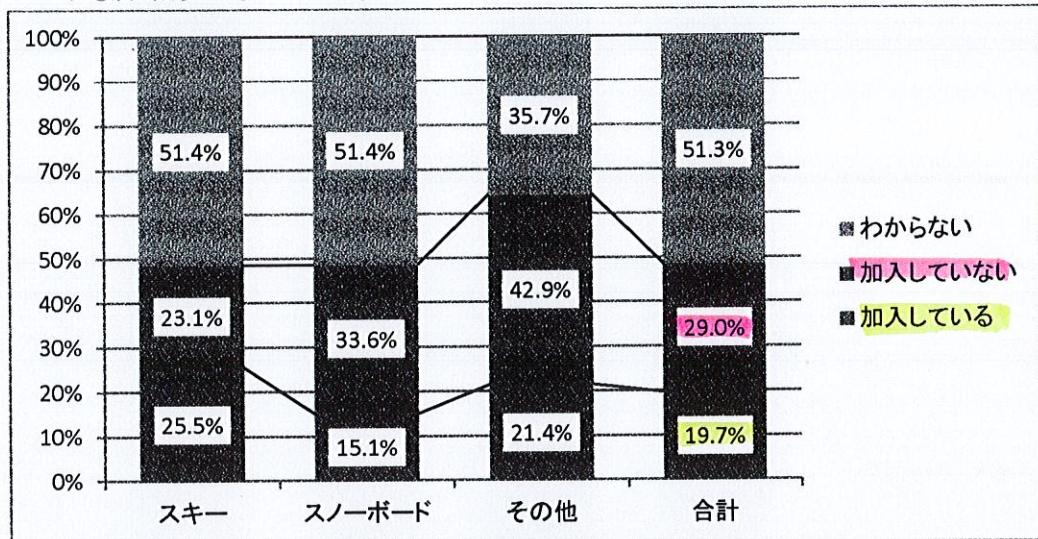


図 17-2. 賠償保険の加入状況

21. 受傷時の行動

図18-1 は受傷時の行動について示したものです。スキー、スノーボードとも「プライベート」での受傷が最も多く、83.7~96.8%を占めました。スキーにおいて「講習中」の受傷の割合が比較的高いのは、スノーボードよりスキースクール等での講習を受講する機会が多いことと関連があると思われます。

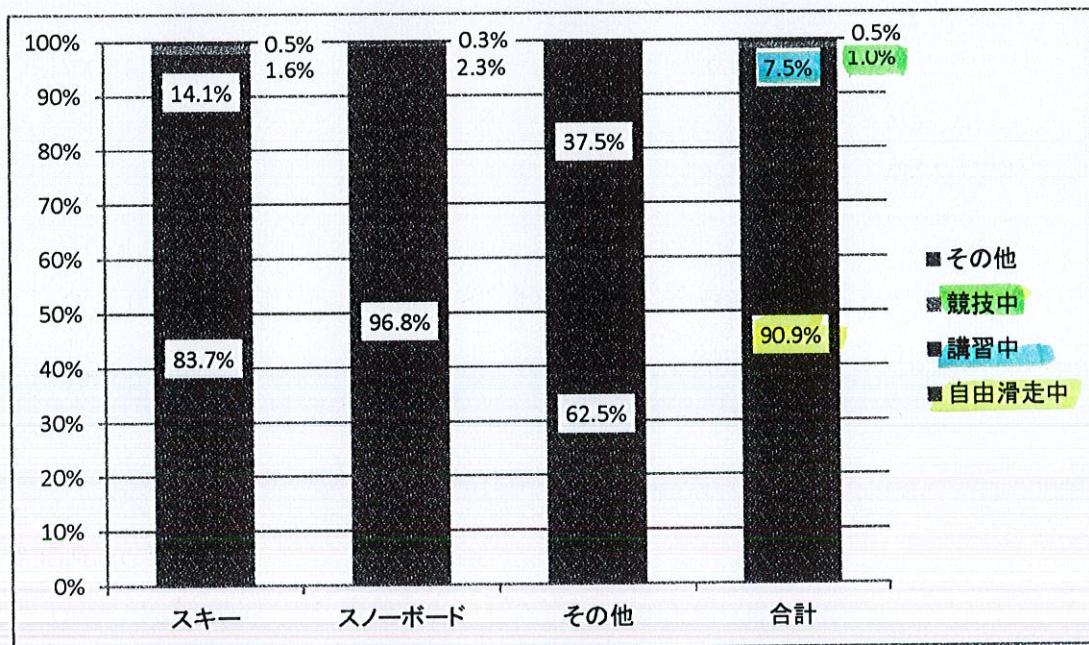


図 18-1. 受傷時の行動

図18-2 は受傷時の行動のうち「講習中」の内訳です。スキーヤー163人、スノーボーダー33人が受傷していました。「授業・講習中」に「生徒」が受傷したと回答があったのは人（スキー35人、スノーボードが6人）でした。「授業・講習中」に「指導者」が受傷したと回答があったのは4人（スキー3人、スノーボード1人）でした。

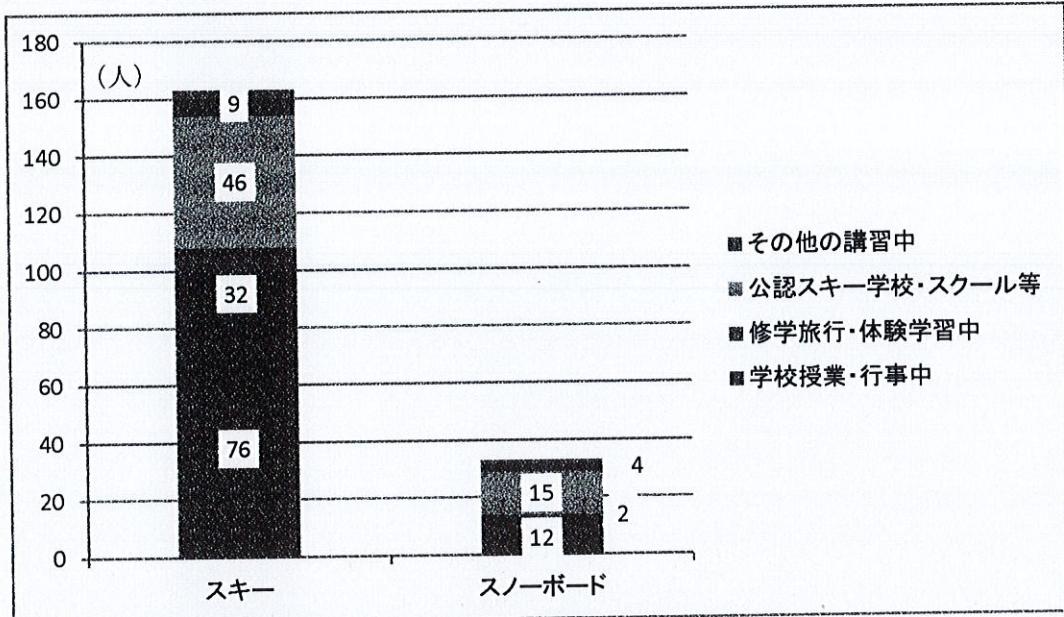


図 18-2. 受傷時の行動「講習中」の内訳

22. 受傷時のスピード

図19 は受傷時の「自覚的」スピードを示したものです。スキー、スノーボードとともに約78~83%が「ふつう」以下のスピードで受傷しています。「自己転倒」による受傷はスキーで77.7%，スノーボードで83.4%に達することから、「ふつう」のスピードと感じていても自分で制御できないほどのスピードが出ていることがわかります。「速度」を自覚し自己制御することが傷害予防の重要なカギとなります。

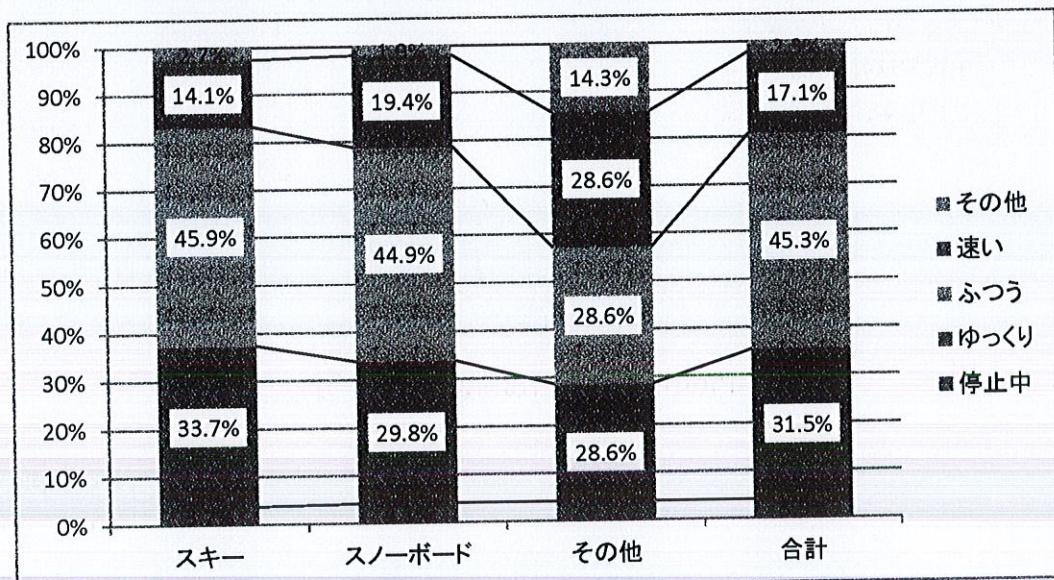


図 19. 受傷時のスピード

23. 雪面状況

図20 は受傷時の雪面状況です。スキー、スノーボードとともに受傷時の雪面は「スムース」の割合が最も高く、約79~85%を占めていました。

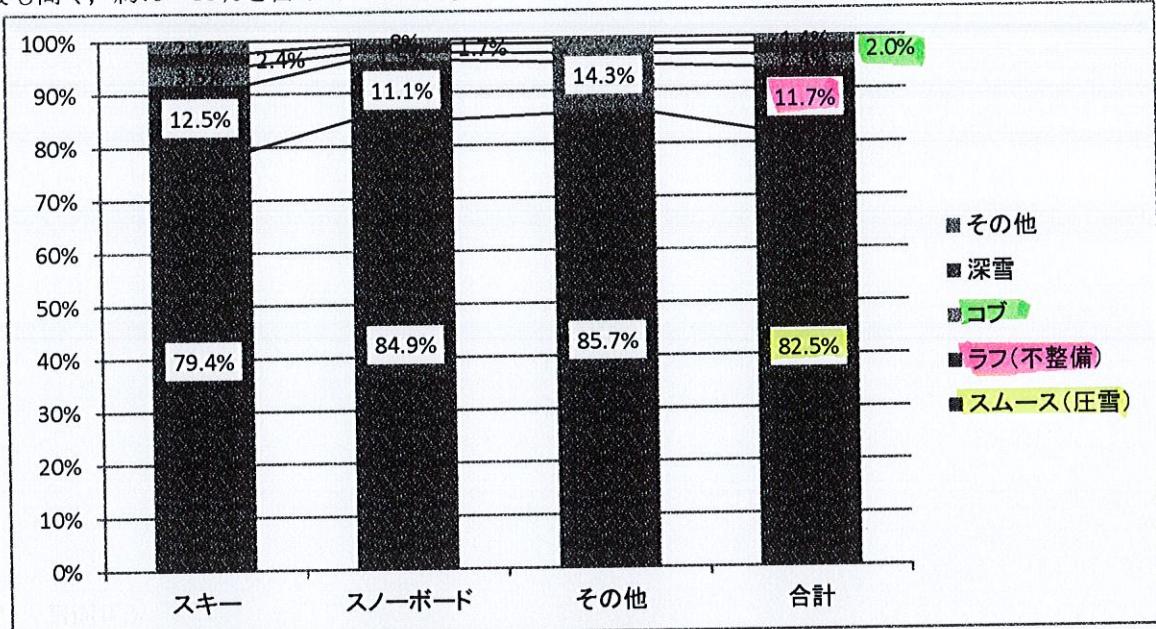


図 20. 雪面状況

24. 雪質

図21 は受傷時の雪質です。スキー、スノーボード、その他の合計で約53.1%が乾雪でした。

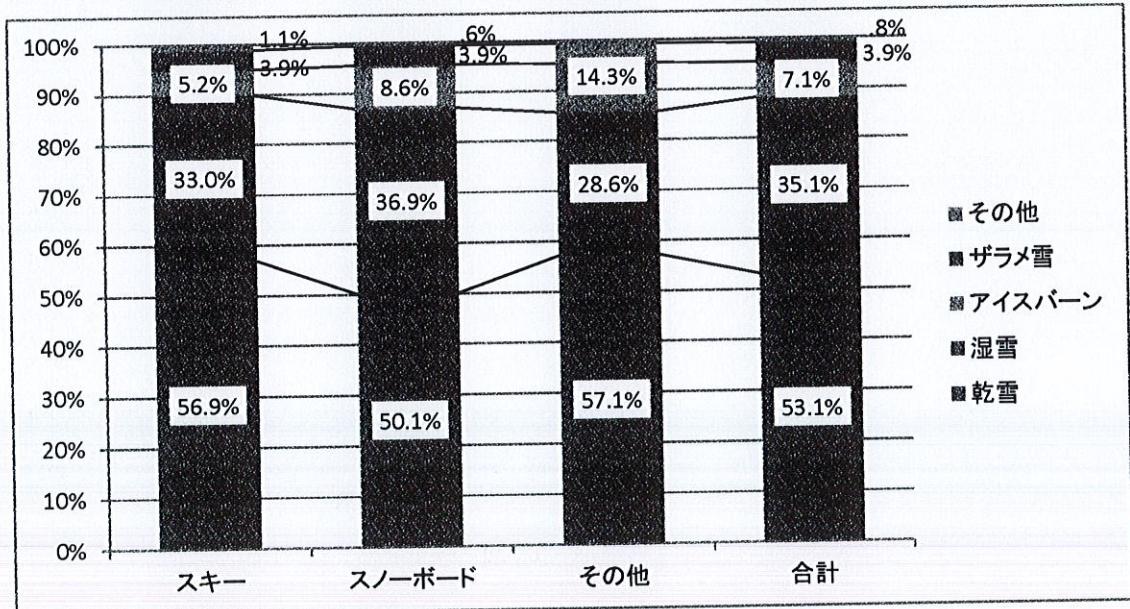


図 21. 雪質

資料1 2019/2020 シーズン スキー場内および管理区域での死亡事故一覧表 (2020年3月31日現在)

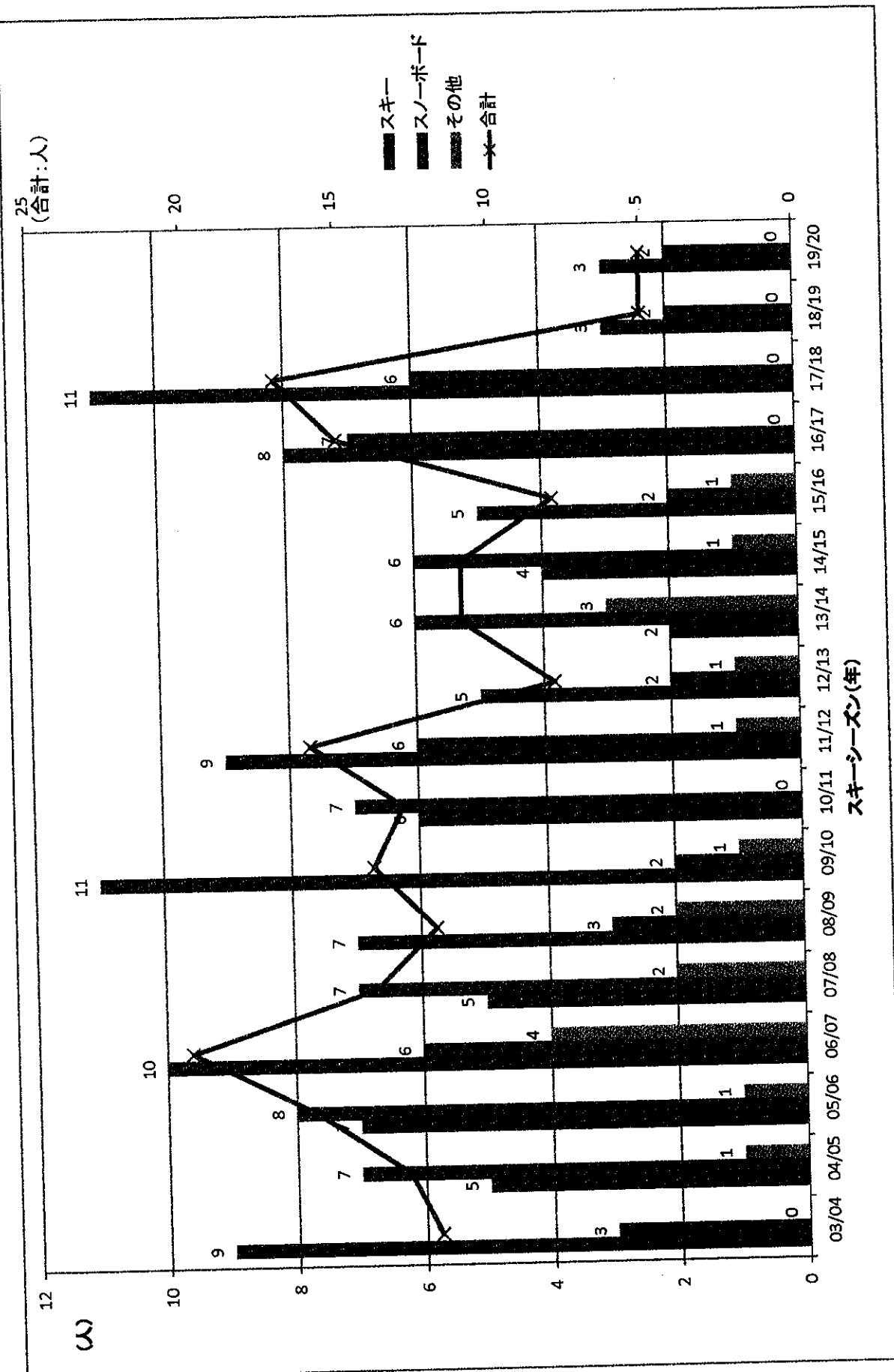
1. スキー場内				原因/対策	記 事
No.	日時／天候	スキー場名 発生場所	死 傷 者	状況	
1	2020.02.08 (土) 15:00 墳	長野県山ノ内町 志賀高原焼額山 スキー場ビギナ ーコース脇から 5.9m離れた地点 コース幅9.7m斜 度15度	S1	友人ら4人と、2月5日から滞在していたオーストラリア籍スキーヤー(61才・男性)が、山頂から下ったビギナーコース付近の、コースから外れた樹木付近で倒れているのを友人が発見した。パトロール隊到着時には心肺停止状態だったため、心臓マッサージををおこない病院へ搬送されたが死亡が確認された。警察で死因を調べたが不明とのこと。	原因: 不明 ①事業者からの報告 ②新聞報道 2/9 信越放送 web 2/11 信濃毎日新聞
2	2020.02.09 (日) 10:00 墳	長野県信濃湯 タングラムスキーザ ークス あんずダカンヒ ル (ツリーランコ ース) 全長:500m 斜 度:23度 新雪:60 cm	B1	友人ら3人で来場していた当該ボーダー(39才・男性)は、友人1人を伴いツリーランコースを滑走し、コース序盤の急斜面から緩斜面に入った場所で転倒し、立ちした状態で雪に埋もれた。(ほぼ同時に友人も転倒し雪に埋もれたため、すぐには助けられなかった。友人は別コースを滑走していた別の友人に電話をかけてパトロールへ救助要請と自身で119番通報した。パトロール到着までの間、通りかかったオーストラリア籍の医師らが救助し心肺蘇生をおこなったが、救急搬送先の病院で死亡が確認された。死因は窒息。現場は非圧雪のスキー場内の森の中を滑る「ツリーランコース」と呼ばれる上級者向けで、一帯は前日の降雪で新たに60cmの積雪があった。コース入口にツリーランコース滑走の案内および緊急連絡先明記の看板を設置。毎朝パトロール隊のコースチェック後にオープングレンデマップ等には、ツリーランコース滑走に潜むリスク文を記載している。(ツリーホール)	原因: 転倒しツリーホールに頭から落ちたのではないか。 対策: 現在コース入り口の案内板には、緊急連絡先 OPEN/CLOSEのみを日本語、英語表記としているが、滑走に潜むリスク文にも英語表記を追加する予定。 ①事業者からの報告 ②新聞報道 2/9 信越放送 web 2/11-13 信濃毎日新聞
3	2020.02.24 (月祝) 10:30 墳 雪 積 り	長野県松本市 野麦峠スキー場 チヤンピオン2 コース外コース 幅20m弱、斜度 10°	S1	2月24日10時30分頃、男性スキインストラクターがコースアウトした生徒を助け起こす際、コース脇の木にスキーボードを発見し、パトロール隊に連絡した。到着したパトロール隊がスキーボード付近に血痕を見つけ、さらに雪の中からスキーウエアらしきものを確認し警察・消防に通報した。12時頃消防隊が到着、雪に埋もれた当該スキーヤーを確認、13時頃警察が到着し現場検証をおこなったのち、スキーヤーをスキーセンターまで搬送し死亡が確認された。当該スキーヤーは2月21日に券したリフト券を所持しており、愛知県在住の常連のスキーヤー(49才・男性)と確認された。死因は外傷性くも膜下出血で立木に衝突したと見られる。現場はコースから約10m離れた斜面でコースからは死角で、23・23日に積雪がありに雪に埋もれた模様。	原因: コース外(サイド?)で転倒し立木に衝突したと思われる。 対策: パトロールの巡回を強化しコース脇も注意する。危険個所を再検討しネット等の設置に取り組む。 ①事業者からの報告 ②新聞報道 2/25 中日新聞 web NBSweb SBCweb 2/25・26 信濃毎日新聞

4	2020.03.22 (日)12:55 墳	秋田県北秋田市 森吉山阿仁スキー場	S1	秋田市山王のスキーヤー（46才男性）は午前中から知人と2人でスキーをしていました。自分に縁いで滑っているはずの男性の姿が見えないことにから知人がパトロール隊に連絡。コース脇斜面のスキ立木（直径30～50cm、高さ10m）の近くで横向に倒れている男性を発見した。立木に衝突したと見られる。北秋田市内の病院に搬送されたが約3時間後に外傷性ショックで死亡した。	コース脇の立木に衝突	①新聞報道 3/22 秋田魁新聞 web
5	2020.03.30(月) 10:05 墳	新潟県妙高市 ロッテアライリゾート フリーライディングゾーン(壁 棚ボウル)	B1	来場していたボーダー（45才男性）が沢に転落した。その際スキー場で偶然出会った友人に携帯電話で救助を要請し、友人がスキー場に救助を要請した。先発したパトロール隊員が規制ロープと規制ネットを潜り、滝へ続くシュブールを発見した。落水で開いた口から滝壺（雪面から滝底まで焼く7.5m）に入り当該ボーダーに接触するが意識が無かつた。救出後の搬送中にAEDを使用したが心停止のため使用できず、胸骨圧迫と人工呼吸を続け、救急隊へ引き継いだが、搬送先の病院で死亡が確認された。死因は緊急性気胸。コース名にもあるボウル地形の谷底まで滑り降りて沢沿いを歩いた模様。左側に少し登つて迂回すればよかつたが、再びボードで右側斜面を滑走し規制ロープと規制ネットを潜つて滝壺に落下した模様。	対策：来場者に規制ロープ・ネット、看板等の規制物を尊重するよう喚起する。	①事業者からの報告 あり ②新聞報道 3/30 NHK 新潟 WEB 3/31 新潟日報

2. 管理区域外（参考）

No.	日時／天候	スキーコード名	死傷者	死状況	原因／対策	記事
1	2020.01.30 (木) 15:30頃 強風	北海道占冠村 トマムスキーコード外	S1	山頂付近の管理区域外で外国人男女8人が雪崩に巻き込まれた。7人は自力で下山できたが、現場にどどまっている1人が意識不明の重体とみられ（携帯が壊れていたためGPSで現場が確認でき）、31日夜明けを待つて北海道警察山岳救助隊などが捜索を開始し発見されたが、死亡が確認された。	雪崩に巻き込まれた	①新聞報道 2/1 北海道新聞 web
2	2020.02.01 (土) 11:40	北海道中頓別町 ピンネシリ岳(703m)	S1	山スキーをしていた美国人(34才)が雪崩に巻き込まれ、仲間に救助されたが搬送先の病院で死亡が確認された。	雪崩に巻き込まれた	①新聞報道 2/2 北海道新聞 web
3	2020.02.01 (土) 12:30頃	長野県松本市北アルプス 乗鞍岳(3,026m) 北東斜面標高2,500m付近	B1	乗鞍岳北東斜面で、仲間2人とバックカントリーをしていたボーダー(47才・男性)が雪崩に巻き込まれたと、同行者から119番通報があった。ボーダーは15時過ぎに山梨県消防防災ヘリに救助され、松本市内の病院へ搬送されたが死亡が確認された。警察によるとボーダーら3人は、靴・乗鞍スノーリゾートから、標高2,500m付近まで登り、バックカントリーをしており、雪崩は最長200～300mほどの規模で、斜面で転倒して歩いていたボーダーを巻き込んだ。同行者2人は難れたところに居り無事だった。当日は気温が上がり乗鞍岳中腹では0℃でこの時期としては暖かかった。地元のツアーカンパニーによると、現場はゲレンデ最上部から2時間半ほどかかり、斜度40度で雪崩が起きやすく、ツアーナラマズ滑らない場所とのことで。現場一帯は1週間前の雨などでアイスバーンができるおり、その上に雪が積もっていた。	雪崩に巻き込まれた	①新聞報道 2/1 中日新聞 web 日本経済新聞 web 長野放送、信越放送 2/2 信濃毎日新聞
4	2020.03.20(金) 17:00頃	長野県小谷村 梅池高原スキー場管理区域外	S1	梅池高原スキー場に入山した東京都在住のスキーヤー(40才男性)と、外国人籍とみられるスキーヤー(40才男性)がバックカントリースキーをしていたところ、標高1,300m付近の沢で迷い。行動不能になつたと、東京都在住の男性から救助要請があつた。翌日、県警ヘリで救助されたが、外国人籍とみられる男性は21日朝の時点で意識がなく搬送先の病院で死亡が確認された。救助要請した男性は軽傷とみられる。県警は死亡した男性の身元や死因を調べている。	遭難	①新聞報道 3/21 NES長野 web 3/22 信濃毎日新聞

資料2 スノースポーツ死亡者数の17年間の推移



資料3 傷害調査用紙

スキー場控

スキー場名		2020年2月スキー場傷害調査用紙					No. S・B-		
● 負傷 日時	2020年 月 日 () 1 午前 2 午後 時 分	● 天候	1 晴 2 曇 3 雪 4 雨 5 その他	● 用 具	スキー ボード ソリ その他	1 アルペンスキー 3 テレマークスキー 4 クロスカントリースキー 5 その他スキー () 6 フリースタイルボード 7 アルペンスノーボード 8 その他のスノーボード 9 子供用ソリ 10 腹掛けソリ 11 立ち乗りソリ 12 その他のソリ () 13 具体的に ()	2 スキーボード (100cm未満) 8 その他のスノーボード 11 立ち乗りソリ 12 その他のソリ () 13 具体的に ()		
● 負傷 者	ふりがな 氏名								
● 住 所	1 男 2 女 年齢 () 歳 外国人の場合 国名: () (〒 -) 都道府県 TEL -					● 受 傷 場 所	1 緩斜面 (~10°) 2 中斜面 (10° ~20°) 3 急斜面 (20° 以上) 10 その他 ()	4 ワンメイク 5 ハーフパイプ 6 ウエーブ 11 リフト乗り場 12 リフト乗車中 13 看板・標識 14 ネット 15 その他 () 16 リフト降り場 17 スキー場エリア外	
● 受 傷 原 因	自分で転倒			人と衝突		人以外と衝突		その他	
1 バランスを崩して 3 ジャンプの失敗 5 逆エッジ転倒			7 スキーと衝突 8 ボーダーと衝突 9 その他の人 ()		10 立木 13 リフト支柱 15 その他 ()		16 具体的に記入 17 原因不明		
● 傷 害 の 部 位 と 種 類	障害の部位と種類を下の表より選び番号で記入して下さい。 ※複数のケガの場合は、障害の重い順に記入して下さい。					● 障 害 程 度	<医療機関での治療> 1 軽 傷⇒さほど必要なし 2 中等傷⇒必要あり 3 重 症⇒緊急に必要 4 死 亡		● 頭 を 強 く 打 っ た 隠 い の 着 用
● 傷 害 重 傷 順 に 記 入	1番	2番	3番	4番		● 1 有 2 無	● 1 有 2 無		
(部位番号は1番より順)					障害の部位	1 初めて 2 初 級 3 中 級 4 上 級 5 その他の	● 1 加入している 2 加入していない 3 わからない	● 1 加入している 2 加入していない 3 わからない	
● 左 ・ 右 ・ 該 当 無	左 右 無	左 右 無	左 右 無	左 右 無					
● 傷 害 の 種 類						● 1 自由滑走中 2 学校授業・行事中 4 公認スキー学校・スクール等 6 ポール練習中 8 具体的に ()	● 1 自由滑走中 3 修学旅行・体験学習中 5 その他の練習中 (ケガをしたのは、1 生徒 2 指導者 3 アシスタント) 7 大会・競技出場中	● 1 相手のケガのため の賠償責任保険に 1 加入している 2 加入していない 3 わからない	
● 部 位	1 頭 2 頸 3 首 4 胸 5 背中 6 腹 7 腹 8 脊部 9 股関 10 肩 11 上腕 12 肘 13 前腕 14 手首 15 手部 16 手指 17 太腿 18 膝 19 下肢 20 足首 21 足部 22 足指 23 その他 ()	● ケ ガ の 部 位 に × 印 つ け て 下 さ い	<プライベート> <練習中> <競技中> <その他>						
● 種 類	1 緊挫 (軟帯損傷を含む) 2 骨折 3 打撲 4 切挫創 (きりきず・すりきず) 5 脱臼 6 その他 ()	● ス ビ ド	1 停止中 2 ゆっくり 3 ふつう 4 速い 5 その他 ()	● 1 スムース (圧實) 2 ラフ (不整地) 3 コブ 4 深雪 5 その他 ()	● 1 乾 雪 2 濡 雪 3 アイスバーン 4 ザラメ雪 5 その他 ()				
● 備 考						● 1 確認している 2 不 明 3 男 4 女			
● 相 手						氏名 _____			
● 搬 送 方 法	①事故現場→救護室・駐車場 ②救急搬送後の行動 ③スキー場→病院: 1 救急車 2 スキー場関係の車 3 負傷者関係の車 4 ヘリコプター 5 その他	1 アキヤ 1 病院へ (病院名:) 1 救急車 2 スキー場関係の車 3 負傷者関係の車 4 ヘリコプター 5 その他	2 スノーボード 2 その他 () 2 その他 () 2 有 2 無	3 スノーモービル 3 その他 () 3 その他 ()	4 自分で 4 その他 () 4 その他 ()	5 その他 () 5 その他 () 5 その他 ()			
搬送者氏名	処置者氏名	記録者氏名	記録 2020年 月 日						

※該当する番号に○印、✓印または文字・数字を記入してください。

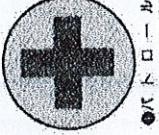
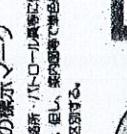
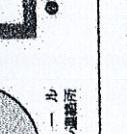
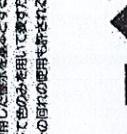
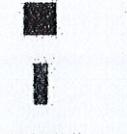
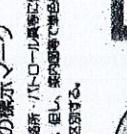
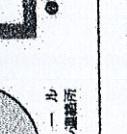
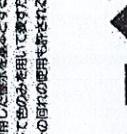
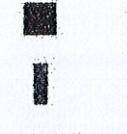
※右上のNo.S・Bは、スキー(S)・スノーボーダー(B)に分けて各々1から番号を付けてください。

※この調査用紙は全国スキー安全対策協議会のスキー場傷害報告書作成以外の目的には使用いたしません。

※負傷者および衝突の相手の氏名・住所は複数されません。

ご協力ありがとうございました
全国スキー安全対策協議会

資料4 全国統一スキーコース標識及びマーク等標示一覧表

A 禁止標識 駆除を要請せしむることを目的とした 禁止で、あそびや行進を禁止するもの。     		B 注意標識 注意すべき状況を知らせぬの警戒で、警戒して行動をとらようがまるもの。     	C 指示標識 安全の確保を目的とする標識で、ある特定の行為の許可や禁止のルート・区画等の規定を示すもの。     	D 注意旗 指けるべき状況の警戒を示すことをポール・張旗等に表示し、指定や進入等を制するもの。 	E 救護関係の表示マーク 救護施設・救護電話所・バトロール員等に使用し、施設や係員の明示を図るもの。但し、緊急時では色表示する場合は、外形を円形四角形で区別する。  
A 禁止標識 禁止で、あそびや行進を禁止するもの。     	B 注意標識 注意の基本様式 中央に黒い四角形(又は字句)     	C 指示標識 安全の確保を目的とする標識で、ある特定の行為の許可や禁止のルート・区画等の規定を示すもの。     	D 注意旗 指けるべき状況の警戒を示すことをポール・張旗等に表示し、指定や進入等を制するもの。 	E 救護関係の表示マーク 救護施設・救護電話所・バトロール員等に使用し、施設や係員の明示を図るもの。但し、緊急時では色表示する場合は、外形を円形四角形で区別する。  	F コースの難かしさを表す色七形 技能練習や練習内訳に用い、コースを難しくさにビットをもつてスキー場のことを図るもの。 通常、色どもを併用した表示が採用される。 但し、特ににちじてのみを用いて表す方法と、形のみを用いて表す方法と、その両者の併用が採用される。   
A 禁止標識 禁止で、あそびや行進を禁止するもの。     	B 注意標識 注意の基本様式 中央に黒い四角形(又は字句)     	C 指示標識 安全の確保を目的とする標識で、ある特定の行為の許可や禁止のルート・区画等の規定を示すもの。     	D 注意旗 指けるべき状況の警戒を示すことをポール・張旗等に表示し、指定や進入等を制するもの。 	E 救護関係の表示マーク 救護施設・救護電話所・バトロール員等に使用し、施設や係員の明示を図るもの。但し、緊急時では色表示する場合は、外形を円形四角形で区別する。  	F コースの難かしさを表す色七形 技能練習や練習内訳に用い、コースを難しくさにビットをもつてスキー場のことを図るもの。 通常、色どもを併用した表示が採用される。 但し、特ににちじてのみを用いて表す方法と、形のみを用いて表す方法と、その両者の併用が採用される。   

(平成3年7月改訂版)

1. 規制やしくするためには、標識に構造な字句を加えることが許される。その際、標識の版面内に記入する方法と、補助板に記入して表示する方法がある。

2. 構造により、標識の版面中央に記入する字句を、面識な字句に代えることが許される。

2019/2020シーズン スキー場傷害報告書
2020（令和2）年9月発行

発行所 全国スキー安全対策協議会

《事務局》

〒111-0056

東京都台東区小島2丁目18番15号

新御徒町妙見屋ビル3階

一般財団法人 日本鋼索交通協会内

TEL 03-3866-3163

FAX 03-3866-3164

<http://www.nikokyo.or.jp/safety-snow/>
e-mail jfta@nikokyo.or.jp

（無断転載禁止）